経営戦略論Ⅰ

(Business StrategiesⅠ： Models and Cases)

担当教員名　　早川　貴				
科目区分　経済：関連 経営：専門・●	授業方法　講義	対象学年　2年	開講期　前期	単位数　2

オフィスアワー	特に定めません。面談等の要望には都度対応しますので、下記のメールアドレス宛に連絡してください。
メールアドレス	haytak ※この後に@fpu.ac.jp を付けてください。
授業概要	このクラスで学ぶのは、多様な経営環境の下で企業の持続的競争優位を創出・維持するために用いられる、経営意思決定と経営環境分析のための思考のフレームワークです。「経営戦略論Ⅰ」では、戦略論の持つ学際的な趣をそのままに、総論的に経営戦略論のアウトラインを学んでゆきます。
到達目標	１）ＰＥＳＴＮ、ファイブフォース、ＰＬＣ、ＶＲＩＯ、ＳＷＯＴ、市場地位別の戦略、ＰＰＭ、アンゾフ・マトリクスなど、経営意思決定の基礎となる概念と分析フレームワークの実践への適用について、その限界を含めて理解している。 ２）上記のようなフレームワークについて、実践的な適用事例の妥当性（または不当性）を他者に説明できる。 ３）上記のようなフレームワークを未知の実践的課題に対して適切に選択・適用できる。

授業計画・内容

このクラスの運営は GoogleClasroom （クラスコード：rcbzkc3）と附属の GoogleMeet を中心に進めます。必ず登録してください。

【授業計画】

１：経営戦略論を学ぶ意義

２：事業とは何か？

３：SWOT と PESTN

４：コスト優位・差別化・集中化

５：プロダクトライフサイクル

６：競争地位別の戦略

７： VRIO 分析

８：バリューチェーン

９：企業レベルの戦略

10：アンゾフ・マトリックス

11：プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント

12：戦略的 CSR

13：組織と戦略

14：組織文化

15：企業成長と組織変革

※ 受講者の関心の傾向と理解・進捗の度合いにより、上記の内容とスケジュールは期中に柔軟に変更・調整されることがあります。

キーワード	経営戦略、製品、事業、企業、組織
教科書	指定しません。
参考書	授業内で適宜、紹介します。
評価方法・評価基準	当クラスでは期中の提出課題として、到達目標の３項目それぞれの水準を測定できるボリュームのある単答試験・論述課題・レポート課題を課し、成績評価の基礎とします。
関連科目	経営戦略論Ⅱ
履修要件	特にありません
必要な事前・事後学修	日本経済新聞、東洋経済などの経済紙誌や、その Web コンテンツに日頃から目を通しておくことと、自身の手で授業のノートを作成することを励行してください。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 但し、このクラスの内容と実務経験はリンクしません。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

経営戦略論Ⅱ

(Business Strategies Ⅱ: Theories of Analysis)

担当教員名　　早川　貴				
科目区分　経済：関連 経営：専門・●	授業方法　講義	対象学年　2年	開講期　後期	単位数　2

オフィスアワー	特に定めません。面談等の要望には都度対応しますので、下記のメールアドレス宛に連絡してください。
メールアドレス	haytak ※この後に@fpu.ac.jp を付けてください。
授業概要	このクラスで学ぶのは、多様な経営環境の下で企業の持続的競争優位を創出・維持するために用いられる、経営意思決定と経営環境分析のための思考のフレームワークです。「経営戦略論Ⅱ」では、経営戦略論のフレームワークが依拠する経済学的基礎について掘り下げて学び、フレームワークに内在する論理構造を詳細に理解して行きます。
到達目標	１）経営戦略論の体系を関連する経済学理論の含意として説明できる。 ２）具体的経営戦略課題を、関連する経済学理論によって分析・理解して説明し、解決できる。

授業計画・内容

このクラスの運営は GoogleClasroom （クラスコード：fokpysz）と附属の GoogleMeet を中心に進めます。必ず登録してください。

【授業計画】

１）ガイダンス

２）「経済費用」と収益性

３）「企業の経済学的描写」と需要・売上

４）「企業の経済学的描写」と完全競争

５）ゲーム理論

６）経営戦略への経済学的視角

７～９）企業の水平境界

10）企業の垂直境界

11～13）取引費用

14）経済学的所有権

15）総括講義

※ 受講者の関心の傾向と理解・進捗の度合いにより、上記の内容は期中に柔軟に変更・調整されることがあります。

キーワード	経営戦略　経済学　取引費用　ゲーム理論
教科書	指定しません。
参考書	授業内で適宜、紹介します。
評価方法・評価基準	当クラスでは期中の提出課題として、到達目標の３項目それぞれの水準を測定できるボリュームのある単答次試験・論述課題・レポート課題を課し、成績評価の基礎とします。
関連科目	経営戦略論Ⅰ
履修要件	特にありません

必要な事前・事後学修	日本経済新聞、東洋経済などの経済紙誌や、その Web コンテンツに日頃から目を通しておくことと、自身の手で授業のノートを作成することを励行してください。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 但し、このクラスの内容と実務関係はリンクしません。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

キャリアデザイン概論Ⅰ①

(Introduction to Career Design Ⅰ①)

担当教員名　　森本　康太郎				
科目区分　経済：関連 経営：関連	授業方法　講義	対象学年　1年	開講期　前期	単位数　2

オフィスアワー	随時（メールで事前に連絡をください）
メールアドレス	morimoto　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	本科目では、今後の学生生活を充実させることの意義を確認するとともに、産業や職業世界についての理解を深め、自身の目指すキャリアデザインの基礎固めを行うことを目的とする。
到達目標	①職業や産業、労働の世界に関する基礎的事項を理解できる。 ②理解した基礎的事項をわかりやすく文章で表現できる。 ③自身の目指すキャリアデザインについて考えることができる。

授業計画・内容

1　オリエンテーション

2　大学での学びとキャリアデザイン

3　大学生活の価値観

4　社会を見る視点

5　経済・雇用をめぐる現状の理解①

6　経済・雇用をめぐる現状の理解②

7　産業と職業

8　職業の世界

9　企業と事業体

10　変化する環境

11　多様な働き方

12　労働とお金

13　ワークルール

14　勤労観と職業観

15　まとめ

キーワード	キャリア　大学での学び　職業　産業　働き方
教科書	特に用いない。授業で使用する資料やワークシート等は、その都度配布する。
参考書	川﨑友嗣編著『大学生のためのキャリアデザイン―自分を知る・社会を知る・未来を考える』ミネルヴァ書房 2019 年 藤村博之編著『考える力を高めるキャリアデザイン入門―なぜ大学で学ぶのか』有斐閣 2021 年
評価方法・評価基準	定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。 評価の割合は、平常試験(ワークシート、ミニッツペーパー等)：60%、レポート：40%とする。 なお、授業を 4／5 以上出席した者を評価の対象とする。
関連科目	キャリア形成論、キャリアデザイン概論Ⅱ、キャリアデザイン特論
履修要件	特になし

必要な事前・事後学修	授業資料や引用文献・参考資料等を読み、授業内容を理解し、自己のキャリア形成に関する考察に生かせるようにすること。 欠席した授業は授業資料を読み理解を進めること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 語学教育を中心とする教育関連企業と、総合大学・付属学校を運営する学校法人における実務経験（営業、人材育成、広報、企画、総務、渉外）を有する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	ワークシート、ペア/グループワークなどの課題を含めた授業を展開するので、積極的に取り組まれたい。

キャリアデザイン概論Ⅰ②

(Introduction to Career Design Ⅰ②)

担当教員名　　森本　康太郎				
科目区分　経済：関連 経営：関連	授業方法　講義	対象学年　1年	開講期　前期	単位数　2

オフィスアワー	随時（メールで事前に連絡をください）
メールアドレス	morimoto　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	本科目では、今後の学生生活を充実させることの意義を確認するとともに、産業や職業世界についての理解を深め、自身の目指すキャリアデザインの基礎固めを行うことを目的とする。
到達目標	①職業や産業、労働の世界に関する基礎的事項を理解できる。 ②理解した基礎的事項をわかりやすく文章で表現できる。 ③自身の目指すキャリアデザインについて考えることができる。

授業計画・内容

1　オリエンテーション

2　大学での学びとキャリアデザイン

3　大学生活の価値観

4　社会を見る視点

5　経済・雇用をめぐる現状の理解①

6　経済・雇用をめぐる現状の理解②

7　産業と職業

8　職業の世界

9　企業と事業体

10　変化する環境

11　多様な働き方

12　労働とお金

13　ワークルール

14　勤労観と職業観

15　まとめ

キーワード	キャリア　大学での学び　職業　産業　働き方
教科書	特に用いない。授業で使用する資料やワークシート等は、その都度配布する。
参考書	川﨑友嗣編著『大学生のためのキャリアデザイン―自分を知る・社会を知る・未来を考える』ミネルヴァ書房 2019 年 藤村博之編著『考える力を高めるキャリアデザイン入門―なぜ大学で学ぶのか』有斐閣 2021 年
評価方法・評価基準	定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。 評価の割合は、平常試験(ワークシート、ミニッツペーパー等)：60%、レポート：40%とする。 なお、授業を 4／5 以上出席した者を評価の対象とする。
関連科目	キャリア形成論、キャリアデザイン概論Ⅱ、キャリアデザイン特論
履修要件	特になし

必要な事前・事後学修	授業資料や引用文献・参考資料等を読み、授業内容を理解し、自己のキャリア形成に関する考察に生かせるようにすること。 欠席した授業は授業資料を読み理解を進めること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 語学教育を中心とする教育関連企業と、総合大学・付属学校を運営する学校法人における実務経験（営業、人材育成、広報、企画、総務、渉外）を有する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	ワークシート、ペア/グループワークなどの課題を含めた授業を展開するので、積極的に取り組まれたい。

キャリアデザイン概論Ⅱ①

(Introduction to Career Design Ⅱ①)

担当教員名　　森本　康太郎				
科目区分　経済：関連 経営：関連	授業方法　講義	対象学年　1年	開講期　後期	単位数　2

オフィスアワー	随時(メールで事前に連絡をください)
メールアドレス	morimoto　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	本科目では、自己理解を深めることを通じて、自身が目指したいキャリアのあり方について検討する。そのうえで、目指すキャリアデザインを実現するために必要な事項を認識することを目的とする。
到達目標	①キャリアデザインに必要な自己理解を行い、将来を展望することができる。 ②キャリアデザインについての気づきや考えを文章で表現することができる。

授業計画・内容

1　オリエンテーション

2　人生経験からの自己理解

3　コミュケーション

4　転機の捉え方

5　ライフキャリアとライフロール

6　職業興味の探索

7　外的キャリアと内的キャリア

8　失敗の免疫

9　中間まとめ

10 ストレスへの対応①

11 ストレスへの対応②

12 ストレスへの対応③

13 キャリア探索の実践に向けて

14 偶然を生かす①

15 偶然を生かす②

キーワード	キャリア　自己理解　適応　成長
教科書	特に用いない。授業で使用する資料やワークシート等は、その都度配布する。
参考書	川﨑友嗣編著『大学生のためのキャリアデザイン―自分を知る・社会を知る・未来を考える』ミネルヴァ書房 2019 年 古田克利著『キャリアデザイン入門―自分を探し、自分をつくる』ナカニシヤ出版　2019 年
評価方法・評価基準	・定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。 ・評価の割合は、平常試験(ワークシート、ミニッツペーパー等)：60%、レポート：40%とする。 ・授業を 4／5 以上出席した者を評価の対象とする。
関連科目	キャリア形成論、キャリアデザイン概論Ⅰ　キャリアデザイン特論
履修要件	特になし

必要な事前・事後学修	授業資料や引用文献・参考資料等を読み、授業内容を理解し、自己のキャリア形成に関する考察に生かせるようにすること。 欠席した授業は授業資料を読み理解を進めること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 語学教育を中心とする教育関連企業と、総合大学・付属学校を運営する学校法人における実務経験（営業、人材育成、広報、企画、総務、渉外）を有する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	検査、ワークシート、ペア/グループワークなどの課題を含めた授業を展開するので、積極的に取り組まれたい。

キャリアデザイン概論Ⅱ②

(Introduction to Career Design Ⅱ②)

担当教員名　　森本　康太郎				
科目区分　経済：関連 経営：関連	授業方法　講義	対象学年　1年	開講期　後期	単位数　2

オフィスアワー	随時(メールで事前に連絡をください)
メールアドレス	morimoto　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	本科目では、自己理解を深めることを通じて、自身が目指したいキャリアのあり方について検討する。そのうえで、目指すキャリアデザインを実現するために必要な事項を認識することを目的とする。
到達目標	①キャリアデザインに必要な自己理解を行い、将来を展望することができる。 ②キャリアデザインについての気づきや考えを文章で表現することができる。

授業計画・内容

1　オリエンテーション

2　人生経験からの自己理解

3　コミュケーション

4　転機の捉え方

5　ライフキャリアとライフロール

6　職業興味の探索

7　外的キャリアと内的キャリア

8　失敗の免疫

9　中間まとめ

10 ストレスへの対応①

11 ストレスへの対応②

12 ストレスへの対応③

13 キャリア探索の実践に向けて

14 偶然を生かす①

15 偶然を生かす②

キーワード	キャリア　自己理解　適応　成長
教科書	特に用いない。授業で使用する資料やワークシート等は、その都度配布する。
参考書	川﨑友嗣編著『大学生のためのキャリアデザイン―自分を知る・社会を知る・未来を考える』ミネルヴァ書房 2019 年 古田克利著『キャリアデザイン入門―自分を探し、自分をつくる』ナカニシヤ出版　2019 年
評価方法・評価基準	・定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。 ・評価の割合は、平常試験(ワークシート、ミニッツペーパー等)：60%、レポート：40%とする。 ・授業を 4／5 以上出席した者を評価の対象とする。
関連科目	キャリア形成論、キャリアデザイン概論Ⅰ　キャリアデザイン特論
履修要件	特になし

必要な事前・事後学修	授業資料や引用文献・参考資料等を読み、授業内容を理解し、自己のキャリア形成に関する考察に生かせるようにすること。 欠席した授業は授業資料を読み理解を進めること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 語学教育を中心とする教育関連企業と、総合大学・付属学校を運営する学校法人における実務経験（営業、人材育成、広報、企画、総務、渉外）を有する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	検査、ワークシート、ペア/グループワークなどの課題を含めた授業を展開するので、積極的に取り組まれたい。

キャリアデザイン特論①

(Career Development and Planning ①)

担当教員名　　森本　康太郎				
科目区分　経済：関連 経営：関連	授業方法　講義	対象学年　2 年	開講期　後期	単位数　2

オフィスアワー	随時（メールで事前に連絡をください）
メールアドレス	morimoto　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	本科目では、キャリアプランニング能力を高め、自己理解に基づいてキャリアデザインを行うとともに、自己表現力を高め、来るべき進路選択や就職活動、職業決定に備えることを目的とする。
到達目標	①キャリアプランニングに必要な自己理解やコミュニケーションスキルを身につけるとともに、将来を展望することができる。 ②身につけた知識やスキルを文章で表現し、他者にわかりやすく説明することができる。 ③自分自身の具体的なキャリアプランニングについて考えることができる。

授業計画・内容

1　オリエンテーション

2　キャリアと価値観

3　パーソナリティの探索

4　コミュニケーションパターン

5　聴くことの大切さ

6　職業興味の探索

7　職業適性の探索①

8　職業適性の探索②

9　仕事のやりがいを考える

10 生涯キャリア発達

11 キャリアプランニング

12 ライフプランニング

13 自分の将来を考える

14 多様なキャリア

15 キャリアのストーリー

キーワード	キャリアプランニング　職業適性　自己理解　コミュニケーション
教科書	特に用いない。授業で使用する資料やワークシート等は、その都度配布する。
参考書	川﨑友嗣編著『大学生のためのキャリアデザイン―自分を知る・社会を知る・未来を考える』ミネルヴァ書房 2019 年 本間啓二・金屋光彦・山本公子著『5 訂版キャリアデザイン概論』雇用問題研究会　2020 年
評価方法・評価基準	・定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。 ・評価の割合は、平常試験(ワークシート、ミニッツペーパー等)：60%、レポート：40%とする。 ・授業を 4／5 以上出席した者を評価の対象とする。
関連科目	キャリア形成論、キャリアデザイン概論Ⅰ　キャリアデザイン概論Ⅱ

履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	授業資料や引用文献・参考資料等を読み、授業内容を理解し、自己のキャリア形成に関する考察に生かせるようにすること。 欠席した授業は授業資料を読み理解を進めること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 語学教育を中心とする教育関連企業と、総合大学・付属学校を運営する学校法人における実務経験（営業、人材育成、広報、企画、総務、渉外）を有する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	検査、ワークシート、ペア/グループワークなどの課題を含めた授業を展開するので、積極的に取り組まれたい。

キャリアデザイン特論②

(Career Development and Planning ②)

担当教員名　　森本　康太郎				
科目区分　経済：関連 経営：関連	授業方法　講義	対象学年　2 年	開講期　後期	単位数　2

オフィスアワー	随時（メールで事前に連絡をください）
メールアドレス	morimoto　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	本科目では、キャリアプランニング能力を高め、自己理解に基づいてキャリアデザインを行うとともに、自己表現力を高め、来るべき進路選択や就職活動、職業決定に備えることを目的とする。
到達目標	①キャリアプランニングに必要な自己理解やコミュニケーションスキルを身につけるとともに、将来を展望することができる。 ②身につけた知識やスキルを文章で表現し、他者にわかりやすく説明することができる。 ③自分自身の具体的なキャリアプランニングについて考えることができる。

授業計画・内容

1　オリエンテーション

2　キャリアと価値観

3　パーソナリティの探索

4　コミュニケーションパターン

5　聴くことの大切さ

6　職業興味の探索

7　職業適性の探索①

8　職業適性の探索②

9　仕事のやりがいを考える

10 生涯キャリア発達

11 キャリアプランニング

12 ライフプランニング

13 自分の将来を考える

14 多様なキャリア

15 キャリアのストーリー

キーワード	キャリアプランニング　職業適性　自己理解　コミュニケーション
教科書	特に用いない。授業で使用する資料やワークシート等は、その都度配布する。
参考書	川﨑友嗣編著『大学生のためのキャリアデザイン―自分を知る・社会を知る・未来を考える』ミネルヴァ書房 2019 年 本間啓二・金屋光彦・山本公子著『5 訂版キャリアデザイン概論』雇用問題研究会　2020 年
評価方法・評価基準	・定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。 ・評価の割合は、平常試験(ワークシート、ミニッツペーパー等)：60%、レポート：40%とする。 ・授業を 4／5 以上出席した者を評価の対象とする。
関連科目	キャリア形成論、キャリアデザイン概論Ⅰ　キャリアデザイン概論Ⅱ

履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	授業資料や引用文献・参考資料等を読み、授業内容を理解し、自己のキャリア形成に関する考察に生かせるようにすること。 欠席した授業は授業資料を読み理解を進めること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 語学教育を中心とする教育関連企業と、総合大学・付属学校を運営する学校法人における実務経験（営業、人材育成、広報、企画、総務、渉外）を有する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	検査、ワークシート、ペア/グループワークなどの課題を含めた授業を展開するので、積極的に取り組まれたい。

生産管理論Ⅰ

(Production Management Ⅰ)

担当教員名　　木野 龍太郎				
科目区分　経済：関連 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　3年	開講期　前期	単位数　2
オフィスアワー	月曜日3・4限　経済学部棟502研究室			
メールアドレス	kino　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。			
授業概要	1.　製造技術に関する歴史的な流れを概説したうえで、トヨタ生産方式に代表される日本のモノづくりの特徴について講義を行う 2.　生産管理の手法そのものに加えて、日本企業の持つ競争力とそれを支える技術との関連性に着目して進めていく。			
到達目標	1.　モノづくりに関する基礎知識と歴史的経緯、日本の代表的な生産方式であるトヨタ生産方式の仕組み、日本の高品質なモノづくりを支える品質管理手法等についての知識を深めることが出来る。 2. 日本の製造技術の発展の経緯や、その競争力の源泉について、理解を深めることが出来る。 ☆本講義は DP 1.　2.　に対応しています			

授業計画・内容

1.　導入（講義のねらい、進め方、評価方法など）※欠席の場合は必ずGCで内容を確認すること

2.　生産システムの分類とその目的（製造形態、品種と数量、需要への対応）

3.　生産形態の変遷（単純協業、分業に基づく協業、機械制大工業）

4.　生産プロセスについて（工程と作業、製品設計—工程設計、ラインレイアウトのタイプ）

5.　フォードシステムについて(1)（T型フォード、互換性原理、移動組立法）

6.　フォードシステムについて(2)（フォードシステムの行き詰まりとGMの台頭）

7.　テイラーシステムについて（課業管理、標準時間の設定、構想と実行の分離）

8.　トヨタ生産方式について(1)（徹底したムダの排除、ジャスト・イン・タイム、かんばん方式）

9.　トヨタ生産方式について(2)（生産の平準化、ニンベンのある自働化、多能工化）

10.　トヨタ生産方式について(3)（省力化・省人化・少人化、稼働率・可働率）

11.　トヨタ生産方式について(4)（標準化、５WHY、目で見る管理）

12.　品質について(1)（設計品質、適合品質、工程能力）

13.　品質について(2)（不良、検査、品質のつくり込み）

14.　品質について(3)（品質管理、TQC、ISO）

15.　まとめ（ゲストスピーカー講義・予定）

※主に板書による講義形式で進めていくが、レジュメやビデオなども織り交ぜていく。

※毎回講義の最初に小テストを実施し、それを受験することで出席扱いとする（遅刻者は受験出来ない）。

※その他、提出課題を課すこともある。

※期末試験は、「筆記用具以外の持ち込み許可物件無し」の論述式試験とする。

※進捗状況によって変更の可能性がある。

※遠隔授業になった場合は、ZOOMとGoogle Classroomを用いてライブ形式で実施する予定。

キーワード	科学的管理法　フォード生産方式　トヨタ生産方式　TQC
教科書	・藤本隆宏　『生産マネジメント入門Ⅰ―生産システム編―』日本経済新聞社
参考書	・大野耐一　『トヨタ生産方式―脱規模の経営をめざして―』ダイヤモンド社 ・井上秀次郎・安達房子編　『企業と社会が見える経営学概論』大月書店
評価方法・評価基準	平常点（50%）＋期末試験（50%） 1.　モノづくりに関する基礎知識と歴史的経緯、日本の代表的な生産方式であるトヨタ生産方式の仕組み、日本の高品質なモノづくりを支える品質管理手法等についての知識を深めることが出来たかどうかを、小テスト及び提出課題により平常点として評価する。 2. 日本の製造技術の発展の経緯や、その競争力の源泉について、理解を深めることが出来たかどうかを、期末試験により評価する。 期末試験期間が遠隔授業となった場合は、②期末試験は実施せず、①平常点のみ（100%）で評価する。
関連科目	「原価計算論」・「管理会計論」・「人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ」
履修要件	・原則として「生産管理論Ⅰ」「生産管理論Ⅱ」の順に履修すること。 ・講義に関する連絡は Google Classroom を用いる。
必要な事前・事後学修	・準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 工業製品を開発・製造する企業において生産現場改善に携わった経験がある教員が、その経験を踏まえて講義を行うとともに、高い技術力を持つ製造企業の経営者などをゲストスピーカーにお迎えする。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	・必ず、Google Classroom（GC）の「iiieB 生産管理論Ⅰ（木野）2025 年度」に登録すること（クラスコード: 6l5ly7v）

生産管理論Ⅱ

(Production ManagementⅡ)

担当教員名　　木野 龍太郎				
科目区分　経済：関連 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　3年	開講期　後期	単位数　2

オフィスアワー	月曜日3・4時限　経済学部棟502研究室
メールアドレス	kino　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	1.　日本の製造企業における研究開発体制の特徴、2.　部品や資材の購買管理及びサプライヤー(資材・部品供給会社)との企業間関係、製造業における人材育成や管理と、その背景にある労使関係などについて講義を行う。 2.　日本の製造業における研究開発及び調達活動の特徴と、それを支える労使関係との関連性に着目して学んでいく。
到達目標	1. 日本のモノづくりにおける研究開発や購買管理についての知識を深めることが出来る。 2. 日本のモノづくりにおける研究開発や購買管理と競争力との関連性や、その基礎となる人材管理・育成について学ぶことで、日本のモノづくりの技術の全体像とその特徴、競争力との関係について理解を深めることが出来る。 ☆本講義は DP 1.　2.　に対応しています

授業計画・内容

1.導入(講義のねらい、進め方、評価方法など)※欠席の場合は必ずGCを確認すること

2.製品開発について(1)（技術の分類、研究／開発の区分）

3.製品開発について(2)（製品開発プロセス、先行技術開発、製品開発過程と顧客満足過程）

4.製品開発について(3)（研究開発組織の分類、重量級PM、プロダクト・インテグリティ）

5.製品開発について(4)（開発期間の短縮、CAD/CAM/CAE、サイマルテニアス・エンジニアリング）

6.製品開発について(5)（アーキテクチャ、モジュラー型、インテグラル型、オープン型、クローズド型）

7.購買管理について(1)（材料・資材の区分）

8.購買管理について(2)（購買組織の分類、購買サイクル、内外製区分の基準）

9.購買管理について(3)（アウトソーシング、開発の分業、）

10.購買管理について(4)（承認図・貸与図方式とデザイン・イン、サプライヤー選定・発注方式）

11.購買管理について(5)（サプライヤー選定基準、SCM、BCP、グリーン調達）

12.人事労務管理について(1)（人事労務管理の体系と目的、日本的労使関係）

13.人事労務管理について(2)（採用管理、配置管理、雇用量管理）

14.人事労務管理について(3)（訓練・教育管理、賃金管理）

15.まとめ（ゲストスピーカー講義・予定）

※主に板書による講義形式で進めていくが、レジュメやビデオなども織り交ぜていく。

※毎回講義の最初に小テストを実施し、それを受験することで出席扱いとする（遅刻者は受験出来ない)。

※その他、提出課題を課すこともある。

※期末試験は、「筆記用具以外の持ち込み許可物件無し」の論述式試験とする。

※進捗状況によって変更の可能性がある。

※遠隔授業になった場合は、ZOOMとGoogle Classroomを用いてライブ形式で実施する予定。

キーワード	研究・開発　購買・調達管理　アーキテクチャ　デザイン・イン　労使関係
教科書	藤本隆宏『生産マネジメント入門Ⅱ—生産資源・技術管理編—』日本経済新聞社
参考書	大野耐一　『トヨタ生産方式—脱規模の経営をめざして—』ダイヤモンド社 井上秀次郎・安達房子編　『企業と社会が見える経営学概論』大月書店
評価方法・評価基準	平常点（50%）＋期末試験（50%） 1. 日本のモノづくりにおける研究開発や購買管理についての知識を深めることが出来るたかどうかを、小テスト及び提出課題により、平常点として評価する。 2. 日本のモノづくりにおける研究開発や購買管理と競争力との関連性や、その基礎となる人材管理・育成について学ぶことで、日本のモノづくりの技術の全体像とその特徴、競争力との関係について理解を深めることが出来たかどうかを、期末試験により評価する。 ※期末試験期間が遠隔授業となった場合は、②期末試験を実施せず、平常点のみ（
関連科目	「原価計算論」・「管理会計論」・「人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ」・「経営組織論」
履修要件	「生産管理論Ⅰ」を履修していることを前提に講義を行う。 講義に関する連絡は Google Classroom を用いる。
必要な事前・事後学修	その他の準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 工業製品を開発・製造する企業において生産現場改善に携わった経験がある教員が、その経験を踏まえて講義を行うとともに、高い技術力を持つ製造企業の経営者などをゲストスピーカーにお迎えする。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	・必ず、Google Classroom（GC）の「iiieB 生産管理論Ⅱ（木野）2025 年度」に登録すること（クラスコード: 6xw5a4e）

マーケティング論

(Marketing)

担当教員名　　北島　啓嗣				
科目区分　経済：関連 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　2年	開講期　後期	単位数　2

オフィスアワー	毎週水曜日３限　（事前にメールで連絡下さい）
メールアドレス	kitahiro　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	マーケティングとは、顧客ニーズの充足を目標として、企業が行うさまざまな活動のことである。企業は、市場調査を行い、製品計画を立て、市場へのコミュニケーションによって需要の顕在化を図る。その様々な活動を戦略的視点から講義する。
到達目標	マーケティングの入門的なレベルの知識を身に付けるとともに、マーケティングの視座から企業の様々な活動を分析するマインド・思考方法の醸成を目指す。 本講義はDP1. に対応しています。

授業計画・内容

市場に軸足を置いた企業の戦略であるマーケティング戦略を次の内容を中心に講義する。

１．イントロダクション

２．マーケティング・ミックス１

３．マーケティング・ミックス２

４．ターゲット市場の選択１

５．ターゲット市場の選択２

６．製品ライフサイクル

７．市場地位別のマーケティング戦略１

８．市場地位別のマーケティング戦略２

９．業界の構造分析１

10. 業界の構造分析２

11. 全社戦略

12. 事業とドメインの定義

13. マーケティングマインドと思考方法

14. 15.　まとめ

理解の程度と進行により、順序を入れ替えることがある。

遠隔授業となった場合はｚｏｏｍとＧＣによる授業を行う。

キーワード	実学　応用経済学
教科書	沼上幹　『わかりやすいマーケティング戦略』　有斐閣アルマ
参考書	
評価方法・評価基準	平常点（レポート含む）・テストの総合評価 ＊遠隔授業の場合も同様
関連科目	流通論、消費者行動論、広告論
履修要件	ノートをきちんと取ること。その際、黒板に書かれた事項以外も含めてまとめること。 教科書を購入すること。講義中に発言を求める。発言しない場合、欠席と見なす。

必要な事前・事後学修	教科書の予習、教科書ノートの復習
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 本講義は実務経験のある教員による講義である。具体的内容は授業計画・内容の欄を参照せよ。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	遠隔授業になった場合の対応はクラスルームにて対応

農業経済学

(Agricultural and Food Economics)

担当教員名　　堀田　学				
科目区分　経済：専門・選択 経営：関連	授業方法　講義，演習	対象学年　3年	開講期　前期	単位数　2

オフィスアワー	随時（メールで予約）
メールアドレス	horita　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	農業・食料問題は我々の必需品を生産してくれる産業としての農業のみならず、地域のあり方と密接に関係し、政策との関連も強い分野です。これらを総合的に理解するために、農協協同組合論や農産物流通論もあわせて学習するとともに、農業・農村をめぐる新しい動きについても考察します。
到達目標	農業・食料をめぐる具体的な問題を論理的に理解できるようにすることを目的としています。そのための基礎となる近代経済学、組織論、マーケティング論等をあわせて身につけることを目標としています。同時に社会科学分野の論文・レポートを作成する技術を身につけることを第二の目標としています。 本講義はDPの1. 2.に対応しています。

授業計画・内容

1.農業経済学の位置づけ

農業経済学の対象と農産物の特徴～生産物としての特徴、財としての特徴

2.農業経営体の展開：家族経営、集落営農、農業法人

3.農業政策の展開:稲作生産と価格支持

4.農業協同組合の特徴 #1 組織と役割

5.農業協同組合の特徴 #2 協同組合の特質・株式会社との対比

6.農業協同組合の特徴 #3 農業協同組合の現代的問題

7.農産物の価格形成；蜘蛛の巣定理・価格発見型価格形成

8.農産物流通の特徴#1 流通経路問題：集分荷過程とM.ホールの取引総数最小化の原理

9.農産物流通の特徴#2 卸売市場の展開

10.農産物流通の特徴#3 地産地消と農産物直売所

11.農業・食料をめぐる新しい動向#1 食の安全性と食品廃棄

12.農業・食料をめぐる新しい動向#2 産地形成と地域ブランド

13.農業・食料をめぐる新しい動向#2 ６次産業化への取り組み

14.環境問題と都市農村交流とグリーンツーリズム

15.総括

注：経済学部（永平寺）・生物資源学部（あわらキャンパス）を交互で対面講義します．対面でない方の学部の学生はzoomで受講してください．対面の回でやむを得ずzoomで受講する場合には事前にご連絡ください．

キーワード	食料・価格形成・農業協同組合・卸売市場・農産物直売所・食の安全性・産地形成・地域ブランド・6次産業化・グリーンツーリズム
教科書	教科書指定しませんが、講義レジュメと資料を配布します。

参考書	土屋圭造『農業経済学』東洋経済新報社、荏開津典生『農業経済学』岩波書店、日本協同組合連携機構『新協同組合とは』 桑原正信監修『青果物流通の経済分析』家の光協会など
評価方法・評価基準	対面・オンラインの場合ともレポート、最終テストおよび平常点から総合的に評価します。
関連科目	ミクロ経済学など
履修要件	特にありません。
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 6次産業化取り組み農業者、食・地域活性化アドバイザー、卸売業者等による実態の講義・説明
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	外部講師をお招きした公開講座（学内限定）を何度か予定しています. Google classroomを講義資料の提供にレポート提出等に用いますので，忘れずに登録してください.

中小企業論Ⅰ

（Small Business Ⅰ）

担当教員名　　山崎　淳				
科目区分　経済：専門・選択 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　2年	開講期　前期	単位数　2

オフィスアワー	火曜日1時限（事前にメールで連絡してください）　経済学部棟703研究室
メールアドレス	atsushi　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	本講義では、中小企業におけるさまざまな議論と実例を解説しながら、中小企業の「問題性」と「発展性」の両面から理解を試みる。 そのための基礎的枠組みを提供することとしたい。
到達目標	多様性の中にみられる中小企業の本質に迫るための基礎的枠組みを学ぶことで、中小企業の理解を深め、中小企業を取り巻く環境、今日的課題についても理解できる（DP①経済の運動や企業の行動についての古今の学説を知り、社会科学についての教養を深め、経済社会の仕組みを知る）。また、中小企業は地域社会の形成者であることに着目し、地域経済の担い手としての役割について理解し、論理的に説明できるようになることを目標とする(DP②現実の経済・経営を分析する能力を持ち、政策について判断する力を身につける)。本講義はDP①、②に対

授業計画・内容

第１回　　ガイダンス　中小企業との接点を探る

第２回　　日本経済の中の中小企業（１）　中小企業の定義

第３回　　日本経済の中の中小企業（２）　中小企業の構成（中小企業の数・割合）

第４回　　中小企業問題の推移（１）　　戦後復興期から高度成長期まで

第５回　　中小企業問題の推移（２）　　1970年代以降

第６回　　中小企業問題の推移（３）　　1990年代以降

第７回　　「中小企業」研究の展開

第８回　　ものづくりと中小企業（１）　　製造業中小企業に焦点を絞る

第９回　　ものづくりと中小企業（２）　　「中小企業の専門化」―「社会的分業の深化」の構図

第１０回　ものづくりと中小企業（３）　製造業中小企業の可能性

第１１回～第１２回　商業と中小企業　中小小売業を取り巻く環境の変化

第１３回～第１５回　中小企業と地域　地域経済の担い手としての中小企業

※遠隔授業になった場合の対応について：ZOOM、Google Classroomを活用した授業とします。

キーワード	中小企業、中小製造業、中小商業、地域
教科書	指定しない。 講義内容や参考資料をまとめたプリントを配布します。
参考書	渡辺幸男ほか『21世紀中小企業』　有斐閣　2001年 中小企業庁編『中小企業白書』　ぎょうせい　各年版 その他、必要に応じて読んでもらいたい本を紹介します。
評価方法・評価基準	中小企業についての理解、分析能力について期末試験の成績70%、課題の提出30%により評価する。 ※遠隔授業の場合、期末試験を期末レポートに変更する。
関連科目	「中小企業論Ⅱ」

履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 担当教員が中小企業支援の経験を踏まえ中小企業の現状、課題について解説する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	14 年度以前入学生は「中小企業論」として履修することができる。

中小企業論Ⅱ

（Small BusinessⅡ）

担当教員名　　山崎　淳				
科目区分　経済：専門・選択 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　2年	開講期　後期	単位数　2
オフィスアワー	火曜日１時限(事前にメールで連絡してください)　経済学部棟703研究室			
メールアドレス	atsushi　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。			
授業概要	中小企業に関する議論を示すことはもちろんのこと、知識集約的なイノベータとしての中小企業である「ベンチャー企業」についての議論まで発展させたい。また、現実的課題を理解するためにケース・スタディーを試みることとしたい。具体的に戦略がどのように策定され、なぜ成功または失敗したかを学ぶことで実践的な感覚を養う。			
到達目標	基礎知識に加え、事例を学び、それぞれの特徴と経営課題について理解したうえで自らの視点で中小企業、ベンチャー企業を分析することができる（ＤＰ①経済の運動や企業の行動についての古今の学説を知り、社会科学についての教養を深め、経済社会の仕組みを知る)。 中小企業支援についてのあり方について自分の考えを示すことができる（DP②現実の経済・経営を分析する能力を持ち、政策について判断する力を身につける)。本講義はDP①、②に対応しています。			

授業計画・内容

第１回　中小企業政策の展開（１）　復興期（１９４５年～）

第２回　中小企業政策の展開（２）　高度成長期（1955年～）

第３回　中小企業政策の展開（３）　転換期（1985年～）

第４回　中小企業金融(１)　中小企業の資金調達の実状

第５回　中小企業金融(２)　中小企業の金融問題

第６回　中小企業の新規事業開発（１）　事例分析

第７回　中小企業の新規事業開発（２）　演習

第８回　中小企業と連携　「連携」の今日的意義

第９回　中小企業とベンチャー企業

第１０回　ベンチャー組織の体系

第１１回　ベンチャー企業の実態と特徴

第１２回　ベンチャー企業経営論の体系

第１３回　ベンチャー企業の成長ステージ

第１４回　起業家の背景と特徴

第１５回　ベンチャー企業の成功要因分析

※遠隔授業になった場合の対応について：ZOOM、Google Classroomを活用した授業とします。

キーワード	中小企業、ベンチャー企業、起業家、連携
教科書	指定しない。 講義内容や参考資料をまとめたプリントを配布します。
参考書	渡辺幸男ほか『21 世紀中小企業』(有斐閣)2001 年 柳孝一・堀井朝運『中小企業の新規事業開発』中央経済社、2007 年 松田修一『ベンチャー企業』日本経済新聞社、1998 年 中小企業庁編『中小企業白書』(ぎょうせい)各年版　　その他、必要に応じて読んでもらいたい本を紹介します。
評価方法・評価基準	中小企業、ベンチャー企業の理解について期末試験成績 70%、課題提出 30%により評価する。 ※遠隔授業の場合、期末試験を期末レポートに変更する。
関連科目	中小企業論Ⅰ
履修要件	「中小企業論Ⅰ」を履修し、単位を修得していることを要件とします。
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 担当教員が中小企業支援の経験を踏まえ中小企業の現状、課題について解説する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	14 年度以前入学生は、履修できない。

地域経済論

(Regional Economy)

担当教員名　　山崎　淳				
科目区分　経済：専門・選択 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　3年	開講期　後期	単位数　2
オフィスアワー	火曜日1時限(事前にメールで連絡してください)　経済学部棟703研究室			
メールアドレス	atsushi　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。			
授業概要	経済活動がボーダレス化する中で、「地域」が注目されている。日本では、「地域格差」という不均衡の問題や都市問題など多くの重要な課題がみられる。そこで地域に関するさまざまな議論を紹介する。そして地域経済の基礎知識を習得したうえで、日本、さらに海外諸国の動向について把握していく。身近な事例を取り上げ、現実的課題についての理解を深めたい。			
到達目標	・「地域」について理解し、説明できる。 ・「地域」に関する問題、さまざまな議論について理解し、説明できる。 (DP①経済の運動や企業の行動についての古今の学説を知り、社会科学についての教養を深め、経済社会の仕組みを知る) ・「地域」の問題発生のメカニズムについてさまざまな角度から考え、地域のあり方、これからの方向を考える基礎となる知識、視点を身に付ける。 (DP②現実の経済・経営を分析する能力を持ち、政策について判断する力を身につける) 本講義はDP①、②に対応しています。			

授業計画・内容

第１回　ガイダンス　地域を考える視点

第２回　地域と経済(1)

第３回　地域と経済(2)

第４回　地域経済の動態と発展の課題(1)

第５回　地域経済の動態と発展の課題(2)

第６回　都市と農村の関係

第７回　地域政策の手法と評価(1)

第８回　地域政策の手法と評価(2)

第９回　産業集積とイノベーション(1)

第10回　産業集積とイノベーション(2)

第11回　地域再生への取り組み

第12回　地域の産業・企業

第13回　地域経済と中小企業

第14回　地域の比較分析(1)

第15回　地域の比較分析(2)

※遠隔授業になった場合の対応について：ZOOM、Google Classroomを活用した授業とします。

キーワード	地域経済、地域政策、産業集積、中小企業
教科書	指定しない。講義内容や参考資料をまとめたプリントを配布します。

参考書	中村剛次郎編著『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣、2008 年 三井逸友編著『地域インキュベーションと産業集積・企業間連携』御茶の水書房、2005 年 その他、必要に応じて読んでもらいたい本を紹介します。
評価方法・評価基準	地域経済に関する知識について、期末試験の成績 70%、課題の提出 30%により評価する。
関連科目	「中小企業論Ⅰ」、「中小企業論Ⅱ」
履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 担当教員が中小企業支援の経験を踏まえ、地域経済と中小企業に関する課題について解説する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

中国の企業と経済

(Enterprise and Economy of China)

担当教員名　　加藤　健太郎				
科目区分　経済：専門・選択 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　3 年	開講期　後期	単位数　2

オフィスアワー	随時（事前にメール連絡してください）
メールアドレス	kenkato　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	1. 中国経済をみる上で知っておくべきこと、2. 中国で注目される産業や企業、3. 世界や日本（企業）における中国の位置づけ、に焦点を当て、中国経済を産業・企業のフィルターを通して体系的に学びます。
到達目標	【本講義は DP2. に対応しています】 1.中国経済の基本的な知識を得ること、2. 中国の産業や企業の実態について知ること、3. 中国の動向を特に日本や世界との関わりの中で捉えて理解すること、を通じて中国経済に関するニュースなどを自ら説明できるようになることを目指します。

授業計画・内容

1　はじめに「群盲象を撫でる」: なぜ中国（経済）を学ぶのか考えます

2　中国の発展プロセス「豊かになり、強くなる」: 工業化の過程を学びます

3　中国の産業構造「中国をスキャニング」: 統計データから中国経済の全体像を把握します

4　中国の企業制度「国進民退って何？」: 国有企業と民営企業の発展について学びます

5　中国の対外経済「外資導入から対外投資へ」: 外資との関りについて学びます

6　中国の国際競争力「中国は強いの？」: 産業政策や技術力について学びます

7　中国のデジタル経済「全部スマホです」: 社会実装化の現状について学びます

8　中国の自動車産業「世界一はトヨタ？」: 中国の EV メーカーの発展過程について学びます

9　中国の半導体産業「産業のコメの自給率」: 中国の半導体産業育成政策について学びます

10　中国の企業「中国の GAFA」: 中国の代表的企業を取り上げます

11　中国と安全保障「経済合理性＋α が必要に」: 経済安全保障について考えます

12　中国と米国の関係「デカップリング」: これまでの米中関係と今後の行方について考えます

13　中国の「一帯一路」政策「今と昔のシルクロード」: 中国の対外経済政策について学びます

14　中国と日本の関係「中国から撤退する？」: 日本（企業）の「中国との付き合い方」を考えます

15　まとめ「全部ひっくるめて中国」: これまで学んだ「中国」をもう一度おさらいします

※　講義の順序や取り上げるトピックは、変更する可能性があります。

キーワード	中国経済の基礎知識、中国の産業・企業の実態と影響
教科書	なし。パワーポイント資料を使用します。
参考書	適宜、講義の中で紹介します。
評価方法・評価基準	ゲストスピーカーによる講義（数回）についてのレポート（50%）と期末課題（中国経済に関する説明資料の作成）（50%）から判断します。 遠隔授業になった場合やゲストスピーカーを招聘できなかった場合は、レポートに変更する予定です。
関連科目	中国経済論、アジア経済論

履修要件	注意事項：2022 年度生以前の「中国の企業と経済」を履修済みの人は履修できません。 2024 年度の「特講 D （中国の企業と経済)」を履修済みの人は履修できません。
必要な事前・事後学修	各回の講義テーマについて、自分なりの問題意識を持って講義に臨んでください。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 中国に関わる実務経験者をゲストスピーカーとして招聘する予定です。状況によっては、変更の可能性もあります。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	※　連絡に GoogleClassroom も使用します（要登録)。 ※　遠隔授業となった場合は、原則として Zoom で実施します。

特別企画講座Ａ

(Labor Issues and Trade Union : Some Case Studies)

担当教員名　今池　康人・新宮　晋・渡邉　敏生				
科目区分　経済：専門・選択 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　１年	開講期　前期	単位数　2

オフィスアワー	メールによる予約で随時対応します。経済学部棟 406 研究室。
メールアドレス	imaike の末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	経済のグローバル化や成熟化、労働市場の規制緩和等を通じて、企業における使用者と労働者の関係は大きく転換しようとしています。さらに 2020 年は新型コロナの蔓延という事態に社会は大きな混乱に見舞われ、社会は大きな変化を迎えました。そうした中で、働くとはどういうことか、またそこにおいて労働組合の果たす役割はどんなものなのか、具体例を交えて明らかにします。
到達目標	働くことはどういうことか、労働者・従業員は法的にどのように守られているのか、労働組合はどのような役割を果たしているのか、労働組合以外で働く人々を誰がサポートしているのか、などについて理解を深め、キャリアを考えるもう一つの観点を獲得することができる。 本講義は DP2.3.に対応しています。

授業計画・内容

「連合福井」が提供する寄付講義です。

第１回：開講の辞：連合寄付講座で福井県立大学生の皆さんに学んでほしいこと

第２回：労働組合ってどんな組織？　どんな役割？　どんな活動をしているの？

第３回：若者や女性にとっての職場環境づくり

第４回：会社でハラスメントに遭ったら！

第５回：メンタルヘルス対策の重要性 ～「こころを支えるネットワーク事業」とは？～

第６回：労働組合作りと地域ユニオン～非正規雇用労働者を取り巻く課題を含めて

第７回：春闘とは？　総合生活改善闘争の意義と役割

第８回：公務職場における労働組合と公共サービス

第９回：パネルディスカッションもしくはトークセッション（具体的内容は未定）

第 10 回：福井県の取り組み

第 11 回：福井労働局の役割と活動

第 12 回：「奨学金制度の現状と課題」並びにトラブルに巻き込まれないための注意点

第 13 回：これまで連合福井に寄せられた労働相談事例の紹介　※学生からのアルバイトに関する質問も含めて

第 14 回：終了講義：講義まとめ～働くということ～

第 15 回：論点整理

（講義の順番や内容に一部変更がある場合があります。また、一部未定の内容を含みます。）

※対面授業ができない状況では遠隔授業（オンライン等）を予定

キーワード	労働組合 労働法 非正規雇用 労働相談 ブラック企業　ブラック・バイト
教科書	特になし

参考書	随時資料を配付する。
評価方法・評価基準	毎回の質問票への回答の提出及び/または期末レポート試験の内容により評価 ただし、遠隔授業ないし試験になった場合、評価方法が変更になることがあります。
関連科目	労働経済学　　キャリアデザイン概論
履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

中国経済論

(Economy of China)

担当教員名　　加藤　健太郎				
科目区分　経済：専門・選択 経営：関連	授業方法　講義	対象学年　2年	開講期　前期	単位数　2

オフィスアワー	随時（事前にメール連絡してください）
メールアドレス	kenkato 末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	1. 中国経済がどのように成長を遂げてきたのか、2. 現在どのような課題に直面していて、それをどのように解決しようとしているのか、3. 中国の成長が世界や日本にどのような影響を与えているのか、に焦点を当て中国経済を体系的に学びます。
到達目標	【本講義はDP2. に対応しています】 1. 中国経済の基本的な知識を得ること、2. 中国が抱える課題について知ること、3. 中国の動向を特に日本や世界との関わりの中で捉えて理解すること、を通じて中国経済に関するニュースなどを自ら説明できるようになることを目指します。

授業計画・内容

1　はじめに「群盲象を撫でる」：なぜ「中国（経済）」を学ぶのか考えます

2　新中国の誕生から現在へ(1)「毛沢東の時代」：建国から「改革開放」までの過程を学びます

3　新中国の誕生から現在へ(2)「鄧小平の時代」：「改革開放」政策の内容と特徴を学びます

4　中国の現体制「習近平の時代」：政治体制や政策決定の過程について学びます

5　中国の経済成長「世界を席巻するMade in China」：経済成長の過程について学びます

6　中国の産業政策「全部スマホです」：産業政策やデジタル経済の現状について学びます

7　中国の格差問題「金持ち中国・貧乏中国」：格差の現状や貧困問題について学びます

8　中国の人口問題「一人っ子って大変？」：人口動態や社会保障問題について学びます

9　中国の都市化政策「農民工って何？」：戸籍制度、労働移動や都市化政策について学びます

10　中国の環境問題「PM2.5って何？」：環境・エネルギー問題の現状と影響について学びます

11　中国の対外経済政策「今と昔のシルクロード」：対外経済政策について学びます

12　中国の外交「中国は誰と仲良し？」：外交政策や米中関係などについて学びます

13　中国と日本の関係「仲が良いの？悪いの？」：日中の政治・経済関係について学びます

14　中国経済の展望：これからの中国経済の行方について考えます

15　まとめ「全部ひっくるめて中国」：これまで学んだ「中国」をもう一度おさらいします

※　講義の順序や取り上げるトピックは、変更する可能性があります。

キーワード	中国経済の光と影（中国の経済成長、中国経済の課題、中国経済の影響）
教科書	なし。パワーポイント資料を使用します。レジュメの配布も併用する予定です。
参考書	適宜、講義の中で紹介します。
評価方法・評価基準	基礎知識を問う中間テスト（50%）と期末の課題（中国経済に関する説明資料の作成）（50%）から判断します。 遠隔授業になった場合、中間テストはレポートに変更する予定です。
関連科目	中国の企業と経済、アジア経済論
履修要件	

必要な事前・事後学修	各回の講義テーマについて、自分なりの問題意識を持って講義に臨んでください。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 中国に関わる実務経験者をゲストスピーカーとして招聘する予定です。状況によっては、変更の可能性もあります。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	※　第 2 回の講義から中間テストの試験範囲に入ります。 ※　連絡に GoogleClassroom も使用します（要登録）。 ※　遠隔授業となった場合は、原則として Zoom で実施します。

開発経済論

(Development Economics)

担当教員名　　池部　亮				
科目区分　経済：専門・選択 経営：関連	授業方法　講義	対象学年　3 年	開講期　前期	単位数　2

オフィスアワー	メールで常時受け付けます。
メールアドレス	ikebe1212　末尾に「@」と「gmail.com」をつけてください。
授業概要	開発経済論が対象とする課題を明らかにし、発展途上国の低開発の歴史的要因を分析する。アジア地域の発展途上国の事例を国別、地域別に概観し、開発のための課題を考える。そのうえで望ましい開発モデルを考える。
到達目標	発展途上国の歴史、現状、課題、開発政策の妥当性などを検討しながら、市場と政府の役割、産業政策の意味、開発と環境などについて考えていく。こうした課題への取組みを通じて、持続可能な開発とは何か、東アジアの共生は可能かなど、今日的課題に答えうる思考力を養っていく。

授業計画・内容

以下の項目について、当日配布するレジュメや板書を中心に講義を行っていく。

１．開発経済論の課題

２．開発経済論の主要な論点

３－４．東南アジアの歴史と日本とのかかわり

５－７．キャッチ・アップ型工業化と雁行形態論

８－９．日本企業のアジア進出と経済発展について

１０－１２．東アジアの国際分業構造

１３－１４．メコン地域の発展状況

１５．アジアの中の日本として持続可能な開発とは何かを考える

キーワード	東アジアモデル、国家と市場、輸出志向工業化、東アジアの経済危機、国際分業、キャッチ・アップ型工業化、持続可能な開発
教科書	―
参考書	坂田幹男『開発経済論の検証』国際書院、2011 年 池部亮『東アジアの国際分業と「華越経済圏」』新評論、2013 年
評価方法・評価基準	7 回目と 15 回目の授業内にテストを実施する。
関連科目	「アジア経済論」、「中国経済論」、「世界経済論」、「移行経済論」、「多国籍企業論」
履修要件	
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 日本貿易振興機構で 25 年勤務し、ベトナムと中国において日本企業の進出支援と現地の

	産業振興に関わった経験から、日本企業の進出、輸出促進によるアジアの発展経緯を探る。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	準備学習については、講義時に指示する。

移行経済論

(Economics of Transition)

担当教員名　　ベロフ　アンドレイ				
科目区分　経済：専門・選択 経営：関連	授業方法　講義	対象学年　3 年	開講期　前期	単位数　2

オフィスアワー	火曜日 10:40～12:10　経済学部棟 301 研究室
メールアドレス	abelov　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください
授業概要	1980 年代末から東欧・旧ソ連諸国は社会主義から市場経済・民主主義に基づいた政治経済体制への移行を開始しました。経済体制の国別モデル、体制転換諸国における社会経済改革、体制転換後の東欧・旧ソ連の経済情勢について述べたいと思います。
到達目標	旧社会主義諸国の経済情勢、東欧・旧ソ連と中国の経済改革との共通点・相違点、ユーラシア大陸におけるロシア・ウクライナ・中央アジア諸国の位置づけ、ウクライナ危機の影響、北東アジア諸国と旧ソ連との経済交流の可能性を理解します。本講義は DP①、②、③に対応しています。

授業計画・内容

1　オリエンテーション、政治経済制度と移行経済論

2　東欧・旧ソ連諸国の経済概要

3　政治経済制度として社会主義

4　社会主義経済の歴史と改革

5　社会主義経済の実績

6　制度転換とその方法

7　マクロ経済の安定化

8　日常生活とその変更

9　国営企業の改革

10　対外経済関係の特色　※

11　旧ソ連諸国と日本・北陸との経済交流

12　東欧諸国の最新政治経済情勢

13　旧ソ連諸国の最新政治経済情勢

14　ロシアの最新政治経済情勢と今後の課題

15　制度転換は終わったのか？

※現役の実務家を招き、日本と中央アジアとのビジネス関係の現状について説明を行う予定です

※遠隔授業となった場合、ZOOM によるオンライン授業、ＧＣによる教材・課題の提供します

キーワード	政治経済制度、制度転換、移行経済、体制転換後の経済、旧社会主義諸国
教科書	授業で紹介します
参考書	授業で紹介します
評価方法・評価基準	東欧･旧ソ連諸国の社会経済動向を分析する能力が身についたかどうかを中間テスト(30%)・期末試験(70%)により評価します。遠隔授業となった場合、期末試験をレポートに変更します（ＧＣによる提供）。
関連科目	「ロシア経済論」、「世界経済論」、「アジア経済論」、「中国経済論」

履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	学習については、教員が講義時に指示します
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 現役の実務家を招き、移行経済諸国の対外経済関係というテーマで日本と中央アジアとのビジネス関係の現状について説明を行う予定です
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	特になし

税法

(Tax Law)

担当教員名　　村松　洋介				
科目区分　経済：関連 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　3年､4年	開講期　後期	単位数　2

オフィスアワー	木曜第４時限
メールアドレス	yosuke　末尾に@fpu.ac.jp をつけてください。
授業概要	租税は国家の活動の主要な資金であり、我々の経済活動は通常何らかの税負担を伴うことから、税法の正しい理解と知識を持つことは非常に有意義である。本授業では、税法の基礎として、租税法序説、所得税法、法人税法、消費税法、租税手続法の重要事項を学ぶ。
到達目標	受講生は、税法の基礎を学ぶことにより、①租税法律主義、②所得税法・法人税法における所得算出過程、③消費税の仕組み、④権利救済手続などを説明できるようになる。そして、社会に出てからも税法に関心を持って企業実務に臨むことができる能力を涵養する。

授業計画・内容

第１回　ガイダンス、租税と法①――租税、租税の根拠、租税法律主義

第２回　租税と法②　――　租税法律主義(続)、租税法の解釈と適用

第３回　所得税法①　――　課税ベース、所得算定過程、収入金額、非課税

第４回　所得税法②　――　費用控除、実現と譲渡

第５回　所得税法③　――　所得分類

第６回　所得税法④　――　所得分類(続)、損失、課税単位と人的帰属

第７回　法人税法①　――　法人税制の基礎理論、納税義務者と課税標準

第８回　法人税法②　――　法人所得算出過程

第９回　法人税法③　――　法人所得算出過程(続)、資本等取引

第 10 回　法人税法④　――　組織再編成、法人グループに係る税制、同族会社に係る税制

第 11 回　消費税法①　――　消費税の概要、消費税の仕組みと課税要件

第 12 回　消費税法②　――　仕入税額控除、国際取引と消費税、電気通信利用役務と特定役務

第 13 回　租税手続法①　――　総説、確定手続

第 14 回　租税手続法②　――　徴収手続、権利救済手続

第 15 回　まとめ

※遠隔授業となった場合は、ZOOM によるオンライン授業またはオンデマンド授業を行う。

キーワード	租税法律主義、所得分類、別段の定め、仕入税額控除、税務調査
教科書	岡村忠生・酒井貴子・田中晶国『租税法〔第４版〕』(有斐閣、2023)。必要に応じて、レジュメ及び資料を配布する。
参考書	中里実他編『租税判例百選［第７版］』(有斐閣、2021)
評価方法・評価基準	小テスト(30%)と期末試験(70%)を実施し、総合的に判定する。
関連科目	法学、簿記原理、会計学
履修要件	法学と会計関連科目(簿記論、会計学等)の基礎知識があれば望ましい。
必要な事前・事後学修	教科書の予習、復習。配布レジュメ・資料、授業で筆記したノートなどの復習。

実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 国税庁、国税不服審判所、税務大学校等で勤務した教員が、その経験も踏まえ授業を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	法令集(コピーでも可)を持参すること。電子的にe-Gov法令検索などで法令を参照できれば、それでも差し支えない。

情報管理論

(Organizational Informatics)

担当教員名　　藤野　秀則				
科目区分　経済：関連 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　2 年	開講期　後期	単位数　2

オフィスアワー	火曜日 2 限目、水曜日 2 限目
メールアドレス	fujino　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	組織内で情報を管理することは、人にどのような情報をどのように与えるか、ということであり、人の活動そのものを管理することにつながる。本講義では、「情報管理を通した組織管理」という考え方の理解を目的に、心理学や社会学の諸理論を引用しながら、人や組織の活動に情報がどのように関わっているかを学ぶ。
到達目標	・情報と人や組織との関わりに関する心理学や社会学の知見への理解を深める。 ・実際に使われている情報管理がどのような心理学・社会学の理論と結びついているかを理解する。 本講義は DP の 1. に対応しています。

授業計画・内容

第１回　「情報管理を通した人と組織の管理」という考え方

第２回　個人内の情報処理特性（１）　知覚特性

第３回　個人内の情報処理特性（２）　記憶

第４回　個人内の情報処理特性（３）　思考１（論理的思考、スキーマ・スクリプト・メンタルモデル）

第５回　個人内の情報処理特性（４）　思考２　ヒューリスティックスとバイアス

第６回　個人内の情報処理特性（５）　注意

第７回　個人内の情報処理特性（６）　行動

第８回　対人関係の情報処理特性（１）　コミュニケーション・モデル

第９回　対人関係の情報処理特性（２）　相互行為としてのコミュニケーション

第 10 回　対人関係の情報処理特性（３）　態度と態度変容

第 11 回　対人関係の情報処理特性（４）　説得コミュニケーション

第 12 回　集団・組織の中での情報処理特性（１）集団化の影響

第 13 回　集団・組織の中での情報処理特性（２）モチベーションとリーダーシップ

第 14 回　集団・組織の中での情報処理特性（３）職務設計と役割外行動

第 15 回　手段・組織の中での情報処理特性（４）組織文化と人の活動

カリキュラム上は 3 年生配当だが，今年度から隔年開講となり，来年度は不開講となるため，今年度は 2 年生の受講も認める.

キーワード	認知科学、コミュニケーション、組織管理
教科書	各回で配布する資料をもとに講義を進める。
参考書	講義の中で適宜、紹介していく。
評価方法・評価基準	期末試験によって評価する。 なお、無断での欠席が 6 回以上あった場合には、無条件で不可とする。 遠隔実施となった場合には、レポート課題によって評価する。
関連科目	心理学、認知科学、人的資源管理論、経営組織論

履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 担当教員が企業内で人的要因やモチベーション分析、さらに、それに基づく教育をした経験に基づき、人の情報処理特性を概説するとともに、それに基づいた「情報管理を通じた人の管理」という考え方について説明する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	・準備学習については、教員が講義時に指示する。

会計学Ⅱ

（Accounting Theory Ⅱ）

担当教員名　　徳前　元信				
科目区分　経済：専門・選択 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　2年	開講期　後期	単位数　2
オフィスアワー	火曜日3限、木曜日2限　経済学部棟506　それ以外でも事前連絡で都合がつけば			
メールアドレス	tokumae　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。			
授業概要	会計は、企業や組織の実態を反映させる鏡である。その機能により、様々な役割を果たし、我々の生活に入り込んでいる。利益計算など会計の仕組みと開示システムの解説と、会計規則の根拠・あり方、そこで求められる役割を考える。最近の企業の会計行動や企業行動の原因も考える。			
到達目標	利益計算の仕組み、フロー計算とストック計算などの会計の基本思考、会計計算と財務報告の応用分野を学び理解できる。また会計データを活用する能力を身につけることができる。 損益計算書、貸借対照表、CF計算書などの作成の基本原則を学習して理解できる。同時に、その見方や活用方法を身につけることができる。特に、連結財務諸表の作成の基本（特に資本連結と未実現利益控除、のれんの会計処理の計算問題を含む）を理解し活用でき、IFRSなど会計の国際的な潮流をを理解し、経済・経営を見る眼として活用することができる。 こ			

授業計画・内容

第１回　オリエンテーション

会計とは何だろうか　キャッシュコンバージョンサイクル(現金を生む力)で企業を見るその１

第２回　会計とは何だろうか　キャッシュコンバージョンサイクル(現金を生む力)で企業を見るその２

第３回　金融商品の会計と包括利益の表示その１

第４回　金融商品の会計と包括利益の表示その２

第５回　金沢国税局と福井財務事務所からのゲストスピーカー講義

実務家による講義

現場の最前線で活躍する実務家によるリレー講義で会計と税務・財政を学ぶ

第６回　リース会計の仕組みと４つの波

第７回　キャッシュ・フロー計算書の仕組みと活用

第８回　税金の会計処理と税効果会計

第９回　減損会計のしくみ　固定資産の評価はどうあるべきか

第10回　外貨換算会計とデリバティブ取引の会計など

第11回　連結会計その１　連結基礎概念と連結範囲判断基準

第12回　連結会計その２　連結貸借対照表　資本連結と全面時価評価　その他包括利益累計額

第13回　連結会計その３　連結損益計算書　未実現利益の消去　持分法の会計処理

第14回　経済のグローバル化と会計の国際的調和化：会計制度の分類と差異の原因

第15回　経済のグローバル化と会計の国際的調和化：IFRSと日本基準　収斂に向けて

遠隔授業となった場合には、ZOOMによるオンライン授業(やむを得ない場合にはＧＣによるオンデマンド授

業等）で対応する。

なお、地元企業などの会計数値を例示に利用している。

キーワード	会計、財務報告、監査、利益計算、会社計算、財務報告
教科書	講義中に指示する。
参考書	桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、 佐藤信彦『財務諸表論の要点整理』中央経済社 齊藤静樹『考えて学ぶ企業会計入門』有斐閣 氏原、徳前、吉岡『会計学　第３版』森山書店　ほか
評価方法・評価基準	試験（60%）によるが、数回の確認テストの結果（40%）も加味する。 会計の基本的考え方が身に付いたか、利益計算の仕組みが理解できたか、会計を通して経済や組織を見ること・考えることができるのかを基準とする。 試験期間が遠隔講義にならざるをえない場合には、ＧＣの機能を利用したテストを行う。
関連科目	「会計学Ⅱ」、「簿記原理」、「簿記論Ⅰ・同Ⅱ」、「原価計算論」、「管理会計論」、「経営分析論」、「経営財務論」など
履修要件	
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 本講義は実務経験者による講義が含まれる。具体的内容は授業計画・内容の欄を参照せよ。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	14 年度以前入学生は、「会計学Ⅰ」・「会計学Ⅱ」（各２単位）の成績を総合し、「会計学」（４単位）として成績評価を行う。

外書講読Ⅰ（山本）

(Reading of Foreign Economics TextⅠ)

担当教員名　山本 涼平				
科目区分　経済：専門・★ 経営：履修不可	授業方法　演習	対象学年　2年	開講期　後期	単位数　2

オフィスアワー	研究室（E308）で随時（事前にメール等で予約してください）
メールアドレス	ryohei61（@fpu.ac.jp をつけてください）
授業概要	英文で書かれた専門文献を受講者で輪読し、議論します。輪読・議論の主なテーマは、経済学とデータ分析による思考法です。各回について発表者・司会者・質問者等の役割分担を決め、クラス全体で内容に取り組みます。
到達目標	① 英文で書かれた専門書を読解し、内容の適切な整理と解釈ができるようになる ② 学術的な表現や専門用語・概念について、英語でも理解できるようになる ③ 経済学の諸問題について、文献を参考にした議論ができるようになる ※本演習はDP3に対応しています。

授業計画・内容

［テーマ］

社会的な問題に対する経済学・データ分析に基づく思考法

［内容］

受講者で文献の発表担当箇所を割り振ります。担当者は授業日までに担当箇所の説明資料を作成し、当日にクラスで発表します。各回の司会者と質問者も受講生に任せます。教員が必要によって補足説明し、司会者と質問者を中心にクラスで当該箇所を議論します。文献の内容は下記「参考書」を予定していますが、受講人数や受講者の履修履歴、進度によって変更が生じます。

第1回：　ガイダンス・担当者の割り振り

第2回～第14回：　下記「参考書」欄にある書籍のトピックをいくつか選び、担当者を割り振ります。履修人数・履修者の興味によってトピックは変わりえます。主なトピックの例は、インセンティブ、情報、犯罪、子育て、教育等です。そうした問題自体を専門的に分析・学修するのが目的ではなく、「問題に対してどのように思考することができるか」がテーマです。

第15回：　まとめの議論

※遠隔授業になった場合は、Zoomによりリアルタイムで行ないます。

キーワード	Microeconomics, Incentive, Economic Rationality, Data Analysis
教科書	必要な資料を適宜配布します
参考書	Steven D. Levitt & Stephen J. Dubner, “Freakonomics: A Rogue Economist Explores the Hidden Side of Everything”, William Morrow Paperbacks, 2009.
評価方法・評価基準	担当箇所の発表　50%（受講人数により、発表回数は変化します） 司会・クラスでの議論への参加　50% ※取組み不足、内容への不参加が続く場合等は単位を認定しません。 ※遠隔授業になった場合でも変更ありません。
関連科目	ミクロ経済学I/II
履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	割り当てられた文献の担当箇所を読解（単に和訳することではありません）し、各自で補足的な説明を加えた発表資料を作成する必要があります。

実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 実務経験者による講義（港湾インフラに関する調査経験）
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

財政学

(Public Finance)

担当教員名　　桑原　美香				
科目区分　経済：専門・● 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　2年	開講期　前期	単位数　4

オフィスアワー	経済学部棟　E-508（※事前にメールにて予約してください）
メールアドレス	kuwamika　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	国民の生活に必要なものは何か、それはどのような基準で・どのように提供されるのか、その財源はどのようにして調達されるのか分野に分けて説明する。
到達目標	国内外で起こっている時事問題について、自分なりの意見を持てるようになることを最終目標としている。 講義はテーマごとに進めるが、それぞれのテーマについて現状、理論、政策理念が理解されることが望ましい。 課題等の提出を通して、資料収集や分析力、文章力なども養われることを望む。 本講義はDP1. 2.に対応しています。

授業計画・内容

基本的には、各章(テーマ)を以下の3回に分けて説明する。

それぞれ1回は（1）現状と課題、(2）理論分析、(3）政策理念の順に進める。

1-2　受講のしかた、事前提出物の書き方、財政学の全体構造について

3-4　財政学で必要となる理論の復習（ミクロ・マクロ経済学、経済数学等）

5-6　財政制度、予算制度と政府の歳出入構造

7-9　【総論】資源配分機能

10-12 【総論】所得再分配機能

13-15 【総論】経済安定機能

16-17　中間テストと振り返り

18-20　戦後の日本経済と地方財政

21-23　租税制度と課税理論

24-26　社会保障制度

27-29　公債理論

30　全体のまとめ

期末試験

第1回目の講義で受講の仕方や規定ノート等の重要事項について説明する。

第3回目の講義以降は、テーマごとに事前に自分で教科書を読み、規定のノートにレジュメ形式で整理して提出してもらう（2週間に1回程度）

※遠隔授業になった場合は、Google Classroomを使用する予定

キーワード	資源配分機能、所得再分配機能、経済安定化機能、近視眼的個人への対応
教科書	林宏昭、玉岡雅之、桑原美香、石田和之『入門 財政学』中央経済社、2021年

参考書	講義資料や参考文献等はGoogle Classroom上に貼る予定 基本的に紙での配布はしないため、各自で事前に印刷しておくこと
評価方法・評価基準	【評価方法】中間試験(40%)期末試験(50%)、課題等提出物他(10%)を実施し、総合的に判定 （※遠隔講義になった場合は、試験等をレポートに変更する場合がある） 【評価基準】以下3点を中心に評価する。 1.財政に関わる専門用語を理論的に説明できるか 2.統計データ等を解釈できるか 3.国内外で起こっている時事問題について概要と賛否、その理由について述べられるか
関連科目	経済政策、金融論、地方財政論
履修要件	ミクロ経済学かマクロ経済学を事前に受講しておくこと
必要な事前・事後学修	各テーマ、講義前迄に教科書を読みレジュメ化して提出すること
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 企業や官公庁からのゲストスピーカーをお呼びすることがある
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	講義中にGoogle Classroomを用いた調査やミニテストを行うため、第1回目の講義迄に繋がるようにしておくこと

金融論

(Finance)

担当教員名　　清水　葉子				
科目区分　経済：専門・● 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　2年	開講期　後期	単位数　4

オフィスアワー	火曜　4限(14:40-16:10)　E704。 これ以外の時間も含め、事前にアポイントをとってください。
メールアドレス	yokos　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。 gアカウントへのメールは見ることがありませんのでご注意ください。
授業概要	経済における金融の機能と、実際の制度や仕組みについて体系的に学ぶ。講義では、金融の機能、資金循環、金融機関の役割、企業の資金調達、金融市場・資本市場の制度、決済の仕組み、日本銀行の行う金融政策について入門的な解説をする。
到達目標	(1) 金融に関する基礎的な知識を身につける。 (2) 企業の資金調達とその手段、個人の資産運用とその手段について理解する。 (3) 金融市場・資本市場の仕組みと機能を理解する。　(4) 資金の決済と、中央銀行の金融政策について理解する。 (5) 日本の金融制度の特徴と、近年の変化を理解する。(6) 講義を聞いて耳で理解した内容を、論理的に記述できる力をつける。 DP1. に対応しています。「経済の運動や企業の行動についての古今の学説を知り、社会科学についての教養を深め、経済社会の仕組みを知る。」 D

授業計画・内容

講義では、毎回「講義メモ」と「資料」を配布する。「講義メモ」は、その日の講義で理解すべきポイントを数か所程度、質問形式にしたもの。講義終了後にあなたが「講義メモ」に答えることができれば、その日の講義は理解できたことになるので、自分の理解度をはかる目安として活用してほしい。

期末試験も基本的に講義メモをもとに出題する。

機会があれば金融に関わる実務経験者をゲストスピーカーとして招聘する。ゲストスピーカーが講義を担当する回を含め、講義期間中に数回コメントペーパーの提出を求める。

1　経済の中の金融システム：金融がうまく働かないとなぜ困るのか？

2　資金循環と金融仲介：お金は世の中をどのようにまわっているのか？

3　金融機関の機能：金融機関はどんな役割を果たしているのか？

4　有価証券の発行と流通：株式や債券とは何か、どういう点が便利なのか？

5　企業の資金調達とコーポレートガバナンス：企業は事業に必要な資金をどう手に入れるのか？

6　株式会社制度と金融：株式会社とはどんな仕組みか？なにが便利なのか？

7　産業としての銀行業：銀行は何をしているのか、どのような課題を抱えているのか？

8　産業としての証券業：証券会社は何をしているのか、どのような課題を抱えているのか？

9　証券取引所：証券取引を効率的・公正に行うためにどんな仕組みが整えられているのか？

10　日本の長期金融：経済成長に必要な長期資金をどうまかなってきたのか？

11　新しい金融商品(1)：先物やオプションなどのデリバティブ商品とはどのようなものか？

12　新しい金融商品(2)：先物やオプションなどのデリバティブ商品とはどのようなものか？

13　信用秩序と規制：金融が円滑に機能するためにどのような規制が行われているのか？

14　決済と中央銀行：毎日の決済に日銀はどのような役割を果たしているのか？

15　マネーサプライと金融政策：お金の量はどう調節され、中央銀行はどんな役割を果たすのか？

　現在の金融政策はどのようなもので、どのような問題をはらんでいるか。

【遠隔授業となった時の対応】原則としてZoomで授業を行うが、状況に応じてGoogle Classroomでオンデマンドで行うこともある。

キーワード	金融、資金循環、金融機関、銀行、証券、資金調達、コーポレートガバナンス、有価証券、株式、債券、証券取引所、決済、中央銀行、金融政策
教科書	教科書はなし。 講義中に毎回「講義メモ」と「資料」を配布。 講義メモを活用して、要点を理解しながら講義に出席すること。
参考書	ウエブサイトなども含め、講義中に適宜指示。
評価方法・評価基準	評価は、期末試験（80%）と、コメントペーパーから講義の理解度を見ること(20%)とで評価。 コメントペーパーを出席確認として扱うことがある。 期末試験は、記述式と短答式をとりまぜ、論理的な記述ができているかどうかに重点をおいて評価する。 【遠隔授業になった場合】試験方法をGoogle Formか、レポートに変更する可能性がある。
関連科目	「マクロ経済学Ⅰ、Ⅱ」、「ミクロ経済学Ⅰ、Ⅱ」、「経済政策」、「財政学」
履修要件	なし。
必要な事前・事後学修	準備や事後学修については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 金融に関わる実務経験者をゲストスピーカーとして招聘予定。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

演習Ⅰ（食料・地域問題を考える）

（Seminar Ⅰ “Food and Regional Problems”）

担当教員名　　堀田　学				
科目区分　経済：専門・★ 経営：履修不可	授業方法　演習	対象学年　3年	開講期　通年	単位数　4

オフィスアワー	随時（メールにて予約）
メールアドレス	horita　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	食料･農業を中心とした地域問題について調査･報告･議論します。受講者は文献調査を通して自身のテーマを決定し、既存資料調査、現地調査等を通して研究経過を報告します。コメンテーターの開題および受講者全員による議論を通して問題の理解を深めます。
到達目標	現実的問題を理解し、アカデミックな観点から現場に提案・改善策を提示できる能力を身につけることを目標としています。テーマには、農業・農村、経営体・協同組合、食品流通・食品マーケティング、６次産業化、農福連携、食品の安全性等、各自の関心を出発点として展開し、演習Ⅱの基礎づくりに位置づけています。 本講義はDPの1. 2.に対応しています。

授業計画・内容

【演習テーマ】

農業・農村・地域問題の所在と改善方向

【演習内容】

＜第1期：テーマ発見・設定＞（4～8月）

第1回：論文の書き方に関する講義、受講生の報告およびコメンテーターの設定のスケジュール決定

第2回～10回：受講生の文献調査を中心とした報告・コメンテーターの開題、全体議論

＜第2期：卒論基盤設定＝文献調査・現地調査＞（9～3月）

第11回：現地調査の方法に関する講義（アポイントメントの取り方、調査項目の設定）

第12回～15回：受講生の現地調査研究を中心とした報告・コメンテーターの開題・全体討議

注：遠隔授業となった場合、zoomによるオンライン授業します。

キーワード	食料・農業・地域経済・協同組合・食品マーケティング・6次産業化・地域活性化
教科書	受講者が自らのテーマに従って研究してもらいます。 必要に応じて、適宜、紹介します。
参考書	『農業と経済』バックナンバーなど
評価方法・評価基準	ゼミでの取り組み状況（報告内容・コメンテーターとしての適切さ・議論への参加等）をもとに評価します。 遠隔授業となった場合、レポートで評価します。
関連科目	「農業経済学」など
履修要件	特にありません。

必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示します。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 6次産業化取り組み農業者、食・地域活性化アドバイザー、卸売業者等による実態の講義・解説
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	準備学習については、教員が講義時に指示します。 積極性を求めています。

演習Ⅰ（財政学演習）

（Seminar Ⅰ “Public Finance”）

担当教員名　　桑原　美香				
科目区分　経済：専門・★ 経営：履修不可	授業方法　演習	対象学年　3年	開講期　通年	単位数　4

オフィスアワー	最初の講義で連絡します。
メールアドレス	kuwamika　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	各回の講義(90分)は以下の構成 　講義前半(30分程度)：担当者による新聞記事発表 　講義後半(60分程度)：教科書輪読 適宜、任意の地域の課題等を抽出し、調査・分析し、発表する。
到達目標	(1) 社会科学的思考方法の修得 　(事象の因果連関を明確化し、構造を理解する) (2) 就職時に求められる即戦力修得 　(情報の取捨選択能力、論理的思考、対話力、文章力、プレゼンテーション能力) 本講義はDP②、③に対応しています

授業計画・内容

【演習テーマ】

地域を財政的側面から考える。

【演習内容】

前期：新聞や教科書等の輪読、データの扱い方・分析手法について重点的に学ぶ

後期：各自で地域に関連する任意のテーマで報告

(1) 課題の背景や問題点などをレジュメに整理

(2) プレゼンテーション

前期・後期とも発表担当者／討論者を決め、疑問点などを互いに質問して理解を深めるものとする。

分析の過程で必要な場合は、ヒアリング調査、アンケート調査、実地研修なども積極的に行い、福井やその他地域の実状を体感できる

講義形式とする。

ただしテーマや講義形態は変更可能。

(※遠隔講義になった場合は、Google Classroomを使用する予定)

その他、全国規模のゼミコン「WEST」や学内ゼミコン、その他活動などへの参加を希望するゼミ生に対しては、別途時間を設ける。

キーワード	地域課題、地方財政、情報の取捨選択、プレゼンテーション能力
教科書	最初の講義で決める。
参考書	日本経済新聞、その他官公庁出版物、データ類
評価方法・評価基準	【評価方法】課題等提出物と報告内容　100% *遠隔の場合の評価方法；期末試験をレポート等に変更する 【評価基準】以下5つの観点から評価 (1) テーマ選択(リサーチクエスチョン～仮説設定)　(2) 情報の取捨選択(データの読み取り)　(3) レジュメの構成　(4) プレゼンテーション能力　(5) 自分なりの考えを説得力をもって説明できるか

関連科目	財政学、地方財政論
履修要件	ミクロ経済学かマクロ経済学、財政学を事前に受講しておくこと。
必要な事前・事後学修	準備学習：講義までに教科書・新聞、資料類を読み、レジュメ化してくること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 官公庁等からのゲストスピーカーをお呼びしたり、ヒアリング調査等に出かけたりする。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

演習Ⅰ（金融論演習）

（Seminar Ⅰ “Finance”）

担当教員名　　清水　葉子				
科目区分　経済：専門・★ 経営：履修不可	授業方法　演習	対象学年　３年	開講期　通年	単位数　4

オフィスアワー	火曜４限　経済学部棟７０４研究室　事前にアポイントをとってください。
メールアドレス	yokos　末尾に｢@｣と｢fpu.ac.jp｣をつけてください。 g アカウントにはメールを送らないようにしてください。
授業概要	基礎的な金融のテキストを輪読しながら、金融構造の変化と金融仲介機関の役割について学びます。金融が社会の中でどのような役割を果たしているかを学びます。また、日本は、銀行中心の金融から証券市場中心の金融へと変化しているとされますが、こうした変化が企業の資金調達や、個人の資産運用・金融機関の役割にどのような影響を及ぼしているかを考えます。
到達目標	金融の仕組みと、日本の金融構造を理解すること。 自分で関心のあるテーマを見つけ、考察を深められること。 後期に｢インターゼミナール・コンテスト｣等の研究発表機会を通じて、資料収集やプレゼンの力をつけること。 DP2. に対応します。　現実の経済・経営を分析する能力を持ち、政策について判断する力を身につける。 DP3. に対応します。　自らの頭で考え、自らの進路を切り開くことができる自立した個人に成長する。

授業計画・内容

【演習テーマ】

金融構造の変化と、金融仲介機関の役割

【演習内容】

・前期は輪読形式で授業を進めます。参加者はあらかじめテキストを読んだ上で、レジュメを作って発表します。発表者には、内容をただまとめてくるだけでなく、他のメンバーが理解しやすいように、説明の仕方・とり上げる例・絵や図表の利用などに工夫をするよう求めます。

・後期には、教科書の輪読と並行して、各自が関心を持ったテーマについて調べることを中心に進めます。自分が知りたいと思ったことを調べて分かりやすく発表することで、他の参加者に「なるほど分かった！」と言ってもらえることを目標にします。インターゼミナール・コンテスト(ゼミコン＝ゼミ合同でのプレゼンテーション・コンテスト)など研究発表の機会がある場合には、積極的に参加します。

・機会があれば、他のゼミと合同で、回帰分析の基礎について集中勉強会(３回程度)をします。

・夏休みに、読書レポート提出を求めます。

資料配布や課題提出に Google Classroom を使う可能性があります。

【遠隔授業になった場合】 Zoom によるオンライン授業を行い、GC を併用します。

キーワード	金融、資金循環、金融仲介機能、金融機関経営、銀行、証券、資金調達、コーポレートガバナンス、有価証券、証券市場、株式、債券、決済、中央銀行、金融政策
教科書	テキスト・参考書は期初に提示し、参加者と相談のうえ、決定します。
参考書	テキスト・参考書は期初に提示し、参加者と相談のうえ、決定します。
評価方法・評価基準	議論への参加と演習での発表を総合的に評価(40%) 夏休みのレポート(20%)、ゼミナールコンテストや学外見学等への参加(40%)

	【遠隔授業になった場合】評価方法は変わりません。
関連科目	金融論、国際金融論、マクロ経済学、ミクロ経済学、経済政策、財政学
履修要件	金融論を履修していることが望ましい。
必要な事前・事後学修	事前・事後学修については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 金融に関わる実務経験者をゲストスピーカーとして招聘予定。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

演習Ⅰ（現代経済演習）

（Seminar Ⅰ “Local Economy and Global Economy”）

担当教員名　　渡邉　敏生				
科目区分　経済：専門・★ 経営：履修不可	授業方法　演習	対象学年　３年	開講期　通年	単位数　4
オフィスアワー	前期：火曜日３限目。後期：木曜日２限目。			
メールアドレス	toshio　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。			
授業概要	「福井・日本・世界」の経済や産業の動向を把握し、経済だけでなく、文化・歴史の面からも現在、抱えている問題点を発見していく。			
到達目標	【到達目標】 ①読解力や問題発見能力を高めることができる。 ②プレゼンテーション能力を高めることができる。 ③「冷静な頭脳と温かい心」を持ちながら行動する。 【DP】 本講義はDP③「自らの頭で考え、自らの進路を切り開くことができる自立した個人に成長する」に対応している。			

授業計画・内容

【演習内容】（以下のことをバランス良くできたら「いいなあ」と思います。）

１．読解力を養う（前期）…2年生の基礎ゼミでも経済や社会に関する本を読んだと思います。演習でも継続的にテキストをゼミ生全員で輪読していきます。テキストは、日本社会に関する新書本を考えています。どんな本を選ぶかはみんなで決めます。経済ネタは少ないです。例えば、テキストが5章立ての場合のスケジュールは以下の通りです。毎回、2人から3人が報告する。

１．　オリエンテーション（テキストの決定）

２．　テキストのイントロダクション（序章）①

３．　テキストのイントロダクション（序章）②

４．　テキストの第１章①

５．　テキストの第１章②

６．　テキストの第２章①

７．　テキストの第２章②

８．　中間まとめ

９．　テキストの第３章①

１０．　テキストの第３章②

１１．　テキストの第４章①

１２．　テキストの第４章②

１３．　テキストの第５章①

１４．　テキストの第５章②

１５．　総まとめ

２．福井・日本・世界経済の動きを捉える（後期）…日本や世界各国で起きている経済事象（例えば、景気や

金融、労働問題、貧困など）を取り上げ、その背景にある原因を探っていきます。データ分析だけでなく、各国・各地域の歴史的な視点も考慮に入れて、問題を整理していきます。例えば、財政問題、環境問題、貧困問題の3つのテーマを扱うときのスケジュールは以下の通りです。毎回、2人から3人(もしくはグループ)が報告し、1つのテーマが終わるごとにまとめを行う。

１．　オリエンテーション

２．　財政問題（理論的アプローチ）

３．　財政問題（歴史的アプローチ）

４．　財政問題（統計的アプローチ）

５．　財政問題の総まとめ

６．　地球環境問題（理論的アプローチ）

７．　地球環境問題（歴史的アプローチ9

８．　地球環境問題（統計的アプローチ）

９．　地球環境問題の総まとめ

１０．　前半のテーマに関する討論会

１１．　貧困問題（理論的アプローチ）

１２．　貧困問題（歴史的アプローチ）

１３．　貧困問題（統計的アプローチ）

１４．　貧困問題の総まとめ

１５．　全体のまとめ、討論会

３．現実を自分の目で確認する…工場見学や企業訪問をして、経済の動向を確認します。その際、現場で活躍する実務経験者と話をしたり、インタビューをします。週末や長期休暇を利用して、フィールドワークに行ければと考えています。例えば、地域を活性化させるために面白い試みを行っている企業や地域に出かけていきます。北海道から九州・沖縄まで…みんなで相談しましょう。

※遠隔授業になった場合、Zoom と Google Classroom を併用して、オンラインでゼミをします。

【その他】

①「大学での成績」の良し悪しは一切問いません。ゼミ選択は大学生活で非常に大切なことです。僕は集まったメンバーと「ワイワイ・ガヤガヤ」できたらいいなあと思っています。②ゼミに入ると、先輩や後輩のゼミ生たちと付き合うことになります。ゼミを作り上げていく前向きな気持ちを持った学生を歓迎します。③僕のゼミでは、卒論を必修にしています。質の高い卒論を書こうとする学生を歓迎します。卒論を書くには、「やる気」と「基礎学力（生まれてからこれまでの学習)」が必要です。

キーワード	ローカル　グローバル　産業　文化
教科書	未定。第１回目のゼミで決めます。
参考書	講義中に随時紹介する。
評価方法・評価基準	①毎回の取り組み姿勢 45% ②最終報告（レポートおよびプレゼンテーション）55% ※遠隔講義になっても評価方法に変わりはありません。

関連科目	特になし。
履修要件	１　【必須】将来の自分のために、お金や時間を費やすことができる学生 ２　挨拶ができる学生。礼儀を知っている学生 ３　僕にパワーをくれる学生。僕に福井の面白さを教えてくれる学生 ４　朝・昼・晩の３度の食事をきちんと取っている学生
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 工場見学の際、現場で活躍する実務経験者と話をしたり、インタビューをします。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	【授業計画・内容】欄に記載

権利擁護を支える法制度

(Legal system that supports the Advocacy)

担当教員名　　山口　理恵子				
科目区分　経済：専門・選択 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　2年	開講期　前期	単位数　2

オフィスアワー	授業の前後に対応する（N560研究室）
メールアドレス	rieko　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	相談援助と法の関わりについて理解する。私的自治は、自己決定・自己責任を原則とするが、判断能力が不十分な人々は、意思決定を行うことや種々の権利を行使すること自体に大きな困難を伴う。そこでそれらを支援する法律や制度について解説する。
到達目標	①日常生活自立支援事業、苦情解決制度をはじめとする社会福祉の対象者を支援するための制度に関する知識を獲得する。 ②成年後見制度を中心に民法について社会福祉士として実践で要求されるレベルまでの知識を獲得する。 ③行政法、憲法と社会福祉各法の関係について基本的な内容を理解する。 本授業はDP（ディプロマ・ポリシー）の3、4に該当する

授業計画・内容

第１回　　相談援助において想定される法律問題

第２回　　日常生活自立支援事業の目的と役割（専門員と生活支援員）

第３回　　日常生活自立支援事業（運営適正化委員会、契約締結審査会）

第４回　　成年後見制度１（法定後見の概要、制限行為能力者）

第５回　　成年後見制度２（法定後見・保佐）

第６回　　成年後見制度３（補助、任意後見制度）

第７回　　成年後見制度４（市町村申立て、成年後見制度利用支援事業）

第８回　　成年後見制度５（障害者権利条約、成年後見制度利用促進法、成年後見制度利用促進基本計画）

第９回　　虐待防止法の概要（高齢者虐待防止法、児童虐待防止法、障害者虐待防止法）

第10回　　意思決定支援ガイドライン解説（意思決定支援と代行決定）

第11回　　民法（契約、不法行為、損害賠償）

第12回　　民法（家族法、相続法）

第13回　　行政法１（行政不服申し立て、行政訴訟）

第14回　　行政法２（個人情報保護法と情報共有）

第15回　　憲法（基本的人権と公共の福祉、自由権、平等権、社会権、幸福追求権）

＜遠隔授業となった場合の対応＞

・Zoomによるリアルタイム授業

・Google Classroomによるオンデマンド授業

キーワード	日常生活自立支援事業・成年後見制度・制限行為能力者・意思決定支援・契約
教科書	第１３巻　権利擁護を支える法制度／刑事司法と福祉（学習双書2025）　全国社会福祉協議会

参考書	「医療・福祉を学ぶ人のための法学入門」　久塚純一他　法律文化社
評価方法・評価基準	試験 50%、レポート・小テスト等提出物 50%（遠隔時は試験をレポートに変更する）
関連科目	法学、法学概論、民法（財産法）、民法（家族法）
履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	社会福祉士国家試験の科目なので授業中に小テストがあり予習復習が必要になる。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 教員は法人後見受任団体の構成員（理事）であり、成年後見制度利用促進基本計画における中核機関の委員である。福井県社会福祉協議会における日常生活自立支援事業の契約締結審査会委員である。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

演習Ⅱ（食料・地域問題演習）

（Seminar Ⅱ “Food and Regional Problems”）

担当教員名　　堀田　学				
科目区分　経済：専門・★ 経営：履修不可	授業方法　演習	対象学年　4年	開講期　通年	単位数　4

オフィスアワー	随時（メールにて予約）
メールアドレス	horita　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	食料・農業問題を中心として、受講者が設定したテーマを研究・報告・議論します。 コメンテーターの解題および受講者全員による議論を通して問題の理解を深めます。
到達目標	自ら設定した課題への取り組みを通して、現実の経済学的な視点と適応・改善の方向性を提示できる能力を身につける事を目的とします。 本講義はDPの1. 2.に対応しています。

授業計画・内容

【演習テーマ】

食料・農業・農村・地域問題の課題の摘出と改善方向の検討

【演習内容】

＜第1期：課題の設定と課題への接近＞（4～8月）

第1回～10回：受講生のテーマ発見、課題と方法、課題への接近の状況について報告し、各回コメンテーターが解題し、

全体で議論します。

＜第2期：調査・分析、論文作成＞（9～3月）

第11回：現地調査、アンケート調査等、課題への接近方法に関する講義（アポイントメントの取り方、調査項目の設定）

第12回～15回：受講生の研究の進捗状況についての報告・全体討議

注：遠隔授業となった場合、zoomによるオンライン授業します。

キーワード	食料・農業・地域経済・協同組合・食品マーケティング・6次産業化・地域活性化
教科書	受講者が自らのテーマに従って研究してもらいます。 必要に応じて、適宜、紹介します。
参考書	『農業と経済』バックナンバーなど
評価方法・評価基準	ゼミでの取り組み状況（報告内容・コメンテーターとしての適切さ・議論への参加等）をもとに評価します。 遠隔授業となった場合、レポートで評価します。
関連科目	「農業経済学」など
履修要件	特にありません。
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 6次産業化取り組み農業者、食・地域活性化アドバイザー、卸売業者等による実態の講

	義・解説
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	準備学習については、教員が講義時に指示します。 積極性を求めています。

演習Ⅱ(財政学演習)

(SeminarⅡ “Public Finance”)

担当教員名　　桑原　美香				
科目区分　経済：専門・★ 経営：履修不可	授業方法　演習	対象学年　4年	開講期　通年	単位数　4

オフィスアワー	最初の講義で連絡します。
メールアドレス	kuwamika　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	地方財政(地域課題)に関する現状を調査・分析し、歴史的背景や関連する制度を理解する。 それらを統合させて、自分なりの意見をもてるようにする。 とりわけ、抽出された課題に対して自分なりの仮説を立て、それらを検証しうるデータを収集・分析し、課題を体系的に理解し、政策提言などができるようにする。
到達目標	(1)社会科学的思考方法の修得(事象の因果連関を明確化し、構造を理解する) (2)就職時に求められる即戦力修得 (情報の取捨選択能力、論理的思考、対話力、文章力、プレゼンテーション能力) 本講義はDP②、③に対応しています

授業計画・内容

【演習テーマ】

地域を財政的側面から考える。

【演習内容】

前期：地域に関連する任意のテーマ

(1) テーマの背景や問題点などをレジュメに整理

(2) プレゼンテーション

発表担当者／討論者を決め、疑問点などを互いに質問して理解を深めるものとする。

後期：卒業論文執筆のための作業に集中

テーマは受講生の希望するものとする。

分析の過程で必要になった場合には、実地調査やヒアリング／アンケート調査、データ分析等を用いるものとする。

本演習では、特に受講生の自主性を重視し、講義形態等は可能なかぎり希望に応じる。

(※遠隔講義になった場合は、Google Classroomを使用する予定)

キーワード	地域課題、地方財政、情報の取捨選択、プレゼンテーション能力
教科書	最初の講義で決める。
参考書	日本経済新聞、その他官公庁出版物、データ類
評価方法・評価基準	【評価方法】課題等提出物と報告内容　100%　*遠隔の場合の評価方法；期末試験をレポート等に変更する 【評価基準】以下5つの観点から評価 (1) テーマ選択(リサーチクエスチョン～仮説設定)　(2) 情報の取捨選択(データの読み取り)　(3) 分析手法　(4) プレゼンテーション能力　(5) 自分なりの考えを、説得力をもって説明できるか
関連科目	財政学、地方財政論

履修要件	ミクロ経済学かマクロ経済学、財政学を事前に受講しておくこと。
必要な事前・事後学修	準備学習：講義までに資料類を収集・分析し、レジュメ化してくること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 官公庁等からのゲストスピーカーをお呼びしたり、ヒアリング調査等に出かけたりする。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

外書講読Ⅰ（藤野）

(Reading of Foreign Economics Text I)

担当教員名　　藤野　秀則				
科目区分　経済：履修不可 経営：専門・★	授業方法　演習	対象学年　2年	開講期　後期	単位数　2

オフィスアワー	毎週火曜日2限　水曜日2限
メールアドレス	fujino　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	安全管理やヒューマンファクター，人の失敗や産業事故に関わる英語の資料をグループで読み進め、その内容をパワーポイントにまとめて発表する（パワーポイントと発表は日本語でよい）。 それとともに，ネイティブスピーカーによる読み上げ音源が入手できる場合には、それを聞き，英語のヒアリングを訓練する。
到達目標	・英文を上手く、素早く要約するスキルを身につける。 ・安全管理やヒューマンファクターに関する基礎知識を身に着ける。 本講義はDPの3.に対応しています。

授業計画・内容

安全管理やヒューマンファクター，人の失敗や産業事故に関わる英語の資料をグループ（4，5人）ごとに1つ選び、グループ内で読み進め、その内容をグループとしてパワーポイントにまとめて発表します。

以下は昨年度実施したグループワークの方法です。受講生の数により、グループワークの仕方は変える可能性があります。

ノートPCを持っている人は、毎回持参して授業に出席してください。

取り上げた論文:

James Reason: "Achieving a safe　culture: Theory and practice, " Work and Stress : An International Journal of Work, Health & Organisations, Vol. 12, No.3, pp.293-306, 1998.

Karl E. Weick: "Organizational Cultue as a Source of High Reliablity," California Management Review, Vol. 29, No. 2, pp.112-127,1987.

Cris Argyris:"Double Loop Learning in Oragnizations," Harvard Business Review, Vol.55, pp.115-125,　1977.

第1回　　オリエンテーション，グループ分け、記事選び

第3回～第11回　　資料精読・パワポ作り

第12回　　グループごとに発表と質疑応答

第13回～第15回　教員による各論文の内容の解説とふりかえり

キーワード	安全管理、ヒューマンファクター、心理学、事故事例、グループワーク
教科書	講義の際に教員が印刷・コピーしたものを配布する.
参考書	適宜指示する。
評価方法・評価基準	課題への取組み態度やグループワークへの貢献度合いにより評価する. 欠席や遅刻の場合は必ず連絡すること。ただし，連絡の有無に関わらず欠席・遅刻が6回を越えた場合には不可とする．また1度でも無断欠席した場合は単位認定しない.
関連科目	特になし

履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 企業内で安全管理の実務についていた経験をもとに、実際の事故について実務者の観点からの解説も行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

外書講読Ⅰ（山崎淳）

(Reading of Foreign Economics TextⅠ)

担当教員名　　山崎　淳				
科目区分　経済：履修不可 経営：専門・★	授業方法　講義	対象学年　2年	開講期　後期	単位数　2
オフィスアワー	火曜日1時限(事前にメールで連絡してください)　経済学部棟703研究室			
メールアドレス	atsushi　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。			
授業概要	ベンチャー企業、中小企業、起業家、企業家精神を理解するための海外雑誌、記事を輪読する。 1～2回の講義で1つの記事を扱います。さらにテーマ毎に参考資料などを活用し議論を行う。			
到達目標	・ 世界のベンチャー企業、中小企業の動向について把握できる。 ・ 経営者、起業家に特徴的な視点について理解できる。 ・ 経営・経済用語について理解できる。 ・ ベンチャー企業、起業家について理解した内容を要約し説明できる。 （DP②現実の経済・経営を分析する能力を持ち、政策について判断する力を身につける） 本講義はDP②に対応しています。			

授業計画・内容

取り上げる記事については、最新の記事を選定することから本年度の記事は未定です。

第1回のガイダンスにおいて受講者と相談しながら決定する。受講者の要望を参考にします。

受講者は、担当箇所を予習し、発表を行う。

第１回　ガイダンス　企業、起業家について理解するために

第２回　流通サービス企画型ベンチャー

第３回　流通サービス企画型ベンチャーの特徴

第４回　技術企画型ベンチャー

第５回　技術企画型ベンチャーの特徴

第６回　研究開発企画型ベンチャー

第７回　研究開発企画型ベンチャーの特徴

第８回　先端技術型ベンチャー

第９回　先端技術型ベンチャーの特徴

第10回　起業家 Entrepreneur の役割

第11回　起業家 Entrepreneur のバックグラウンド

第12回　起業家 Entrepreneur の特徴

第13回　世界に通用する急成長企業　事例１

第14回　世界に通用する急成長企業　事例２

第15回　企業家精神（２） Entrepreneurship

※遠隔授業になった場合の対応について：ZOOM、Google Classroom を活用した授業とします。

キーワード	中小企業、ベンチャー企業、起業家
教科書	記事は各回配布します。
参考書	講義中に適宜指示します。
評価方法・評価基準	世界のベンチャー企業、中小企業についての理解を発表 60%、課題の提出 40%により評価する。 ※遠隔授業の場合も遠隔授業への出席時の発言、発表、レポートなど総合して行う。
関連科目	「中小企業論Ⅰ」、「中小企業論Ⅱ」
履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 担当教員が中小企業、ベンチャー企業の調査経験を踏まえ中小企業、ベンチャー企業の現状、課題について解説する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	やむを得ず欠席する場合は、メール等で連絡すること。

演習Ⅰ（生産管理論演習）

（Seminar I “Production Management”）

担当教員名　　木野 龍太郎				
科目区分　経済：履修不可 経営：専門・★	授業方法　演習	対象学年　3年	開講期　通年	単位数　4
オフィスアワー	月曜日3・4限　経済学部棟502研究室			
メールアドレス	kino　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。			
授業概要	1. 前期はテキストを用いてモノづくりの基本的な仕組みを学ぶ。テキストを各章ごとに分担し、担当箇所についての報告を行う。 2. 後期からは、各個人が卒業研究の準備として研究テーマを設定し、関連する資料の収集を行い、調べた内容をゼミで報告・議論をしていきながら卒業研究構想レポートを作成し、演習Ⅱの卒業研究・論文執筆につなげる。 3. 企業訪問などの学外実習も行う予定。			
到達目標	1. モノづくりに関する様々な知識や考え方を学び、議論を深めることによって、経営学に関する知識を深め、論理的な思考力・分析力を高めることが出来る。 2. 各個人が研究テーマを設定し、卒業研究に向けての準備を行っていくなかで、受動的な学習から脱却し、自らの問題意識に基づいて物事を探求することが出来る。 ☆本講義は DP 2. 3. に対応しています			

授業計画・内容

1. 導入・分担決定（必ず出席すること）
2. テキスト報告(1) トヨタ生産方式成立の背景
3. テキスト報告(2) トヨタ生産方式の基礎知識
4. テキスト報告(3) 5WHY、ムダの排除
5. テキスト報告(4) かんばん方式
6. テキスト報告(5) 平準化
7. テキスト報告(6) トヨタ式情報システム
8. テキスト報告(7) 現場作業の認識
9. テキスト報告(8) 必要数
10. テキスト報告(9) トヨタ生産方式の系譜
11. テキスト報告(10) フォード・システムの真意
12. 時間計測演習(1)
13. 時間計測演習(2)
14. 企業訪問(1)（予定）
15. 企業訪問(2)（予定）
16. 卒業研究準備報告(1) ゼミ生による個別テーマ報告
17. 卒業研究準備報告(2) ゼミ生による個別テーマ報告
18. 卒業研究準備報告(3) ゼミ生による個別テーマ報告
19. 卒業研究準備報告(4) ゼミ生による個別テーマ報告
20. 卒業研究準備報告(5) ゼミ生による個別テーマ報告

21. 卒業研究準備報告(6) ゼミ生による個別テーマ報告

22. 卒業研究準備報告(7) ゼミ生による個別テーマ報告

23. 卒業研究準備報告(8) ゼミ生による個別テーマ報告

24. 卒業研究準備報告(9) ゼミ生による個別テーマ報告

25. 卒業研究準備報告(10) ゼミ生による個別テーマ報告

26. 卒業研究準備報告(11) ゼミ生による個別テーマ報告

27. 卒業研究準備報告(12) ゼミ生による個別テーマ報告

28. 企業訪問(3)（予定）

29. 北陸技術交流テクノフェア見学（予定）

30. 卒業論文報告会参加

※進捗状況などによって変更の可能性がある。

※企業訪問などでは時間を変更する場合がある。

※遠隔授業になった場合は、ZOOM と Google Classroom を用いてライブ形式で実施する予定

キーワード	モノづくり　生産管理　品質管理　製品開発　物流　購買
教科書	大野耐一『トヨタ生産方式―脱規模の経営をめざして―』ダイヤモンド社
参考書	井上秀次郎・安達房子編『企業と社会が見える経営学概論』大月書店 その他、受講生のテーマに応じて適宜指示
評価方法・評価基準	平常点(50%)＋②期末レポート(50%) 1. モノづくりに関する様々な知識や考え方を学び、議論を深めることによって、経営学に関する知識を深め、論理的な思考力・分析力を高めることが出来たかどうかを、ゼミにおける報告資料作成や議論の内容、提出課題により評価する。 2. 各個人が研究テーマを設定し、卒業研究に向けての準備を行っていくなかで、受動的な学習から脱却し、自らの問題意識に基づいて物事を探求することが出来たかどうかを、期末レポートにより評価する。 ＊遠隔授業においても、同様の評価方法・評価基
関連科目	「原価計算論」「管理会計論」「人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ」　「経営組織論」
履修要件	「導入ゼミ」、「基礎ゼミ」を履修・単位取得済みであること。 必ずゼミと並行して「生産管理論Ⅰ」「生産管理論Ⅱ」を履修すること。
必要な事前・事後学修	担当箇所の報告の他に、通年で 5-6 回の報告担当になるので、資料のサーベイや報告資料作成など、事前・事後学習の時間を十分に確保することが必要となる。　その他の準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 工業製品を開発・製造する企業において生産現場改善に携わった経験がある教員が、その経験を踏まえて演習指導を行うとともに、企業訪問などを行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	・必ず、Google Classroom（GC）の「iiiB★演習Ⅰ（木野）2025 年度」に登録すること（クラスコード: 3mb45mh）。 ・無断欠席は当該演習の単位を認定しない。

演習Ⅰ（組織情報システムデザイン）

（Seminar Ⅰ “Safety Management and Information System”）

担当教員名　　藤野　秀則				
科目区分　経済：履修不可 経営：専門・★	授業方法　演習	対象学年　3年	開講期　通年	単位数　4

オフィスアワー	火曜日2限
メールアドレス	fujino　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	人の失敗を引き起こす心理特性や行動特性や、事故や失敗を防ぐための人やチーム、組織の安全管理の考え方を学ぶとともに、安全管理の高度化に向けた情報システムの活用方法について研究していく。
到達目標	・統計分析やプログラミングに関するスキルを身に着ける。 ・事故や人の失敗に関わる人や組織の特性についての理解を深める。 ・実験や調査を自ら設計していく能力を磨く。 本講義はDPの3.に対応しています。

授業計画・内容

【演習テーマ】

・大規模技術システムにおける安全管理

・AIを活用した安全管理の高度化・効率化方法の検討

・AIを活用した組織で働くメンバが仕事により前向きに取り組める方法・仕事を楽しくできる方法の検討

・AIを活用した組織内での知識継承や情報共有を促すためのコミュニケーションの支援・促進方法の検討

・その他，安全性を向上させていくための方法の検討

ただし、上記以外のテーマについても、みなさんの希望に合わせた内容で学習・指導をしていく。

【演習内容】

・前期はまず教科書を輪読しながら安全管理の基本的な考え方を身に着ける．その後，実際に起こった事故をリサーチしてもらい，教科書で学んだことが実際にどのような形で事故と結びつくのかを理解してもらう．

・後期は、グループ研究の遂行を中心に、毎週の演習では進捗状況の報告を中心とした、研究活動についての発表･議論を行っていく。また、3年生の間におこなうグループ研究に関して、最終的に適当な場で成果の発表をする。

【注意事項】

・企業の現場見学会や他大学との交流会を行う予定である。これらを行う場合、日程が変則的となることがある。

・実験や調査等を実施するにあたって、演習Ⅰの時間以外にも自主的に活動することが求められる。

遠隔授業となった場合には、Zoomでのオンライン授業とする。

キーワード	情報管理、安全管理、ヒューマンファクター、ヒューマンインタフェース
教科書	適宜指示します。
参考書	適宜指示します。
評価方法・評価基準	課題への取り組み、議論への参加の積極性、ゼミ活動への参加の積極性により評価しま

	す。 なお、無断欠席はたとえ一度でも不合格とします。 ＊遠隔授業においても、同様とする。
関連科目	経営情報論、情報管理論
履修要件	必ず「経営情報論」（前期開講），「情報管理論」（後期開講）もあわせて履修すること。
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 企業内でシステム開発や人を対象とした実験や調査をした経験に基づいて、人を対象にした実験や調査の実施方法を指導する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

演習Ⅰ（中小企業経営論演習）

（Seminar Ⅰ “Small business Management”）

担当教員名　　山崎　淳				
科目区分　経済：履修不可 経営：専門・★	授業方法　演習	対象学年　3年	開講期　通年	単位数　4
オフィスアワー	火曜日１限（事前にメールで連絡してください）　経済学部棟703研究室			
メールアドレス	atsushi　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。			
授業概要	中小企業、ベンチャー企業を研究対象とする。具体的には、「企業とは何か」からはじめ、中小企業・ベンチャー企業の経営の特徴を理解する。そして企業経営に不可欠な経営戦略を理解することで戦略的思考能力を身につける。			
到達目標	・中小企業、ベンチャー企業の経営の特徴について説明できる。 （ＤＰ①経済の運動や企業の行動についての古今の学説を知り、社会科学についての教養を深め、経済社会の仕組みを知る）。 ・経営者に質問する力を身に付ける。 ・中小企業、ベンチャー企業を取り巻く環境にも注目して新聞等の情報を理解、活用できる。 ・グループワーク、フィールドワークを経験し、その成果を発表することで伝える力を身に付ける。 （ＤＰ②現実の経済・経営を分析する能力を持ち、政策について判断する力を身につける） 本講義はＤＰ①、②に対応			

授業計画・内容

【演習テーマ】

中小企業経営論

【演習内容】

（１）企業経営に関する基礎知識の習得

基本テキストを活用し、ゼミ生は担当箇所を決め、報告者となり、担当部分の討議すべき問題提起、自己の主張をまとめた報告書を事　前に配布し、ゼミ当日はこれを中心に全ゼミ生でディスカッションを行う。この過程を通して各人の研究テーマの絞り込みを行う。

基本テキストは、ゼミ生の要望などを考慮して選定する。

（２）中小企業・ベンチャー企業の調査

事前準備を十分に行い、経営者への質問・応答によって企業経営の現実的課題を把握する。フィールドワークなどをとおして、企業が「地域に根ざした存在」であることを確認し、「地域経済と企業」などの問題にも視野を広げる。

（３）中小企業・ベンチャー企業の若手経営者との交流

【演習計画】

第１回　　ガイダンス　基礎テキストの説明

第２回　　基礎テキストの理解（1）戦略

第３回　　基礎テキストの理解（2）差別化

第４回　　基礎テキストの理解（3）競争優位

第16回　第１回から15回の内容の復習

第17回　フィールドワークの成果発表

第18回　フィールドワークの成果発表

第19回　基礎テキストの理解（13）経営理念

第 5 回　基礎テキストの理解（4）多角化	第 20 回　基礎テキストの理解（14）リーダーシップ
第 6 回　基礎テキストの理解（5）企業構造	第 21 回　基礎テキストの理解（15）　人の配置
第 7 回　基礎テキストの理解（6）国際化	第 22 回　基礎テキストの理解（16）学習
第 8 回　基礎テキストの理解（7）資本構造	第 23 回　基礎テキストの理（17）パラダイム転換
第 9 回　基礎テキストの理解（8）雇用構造	第 24 回　基礎テキストの理解（18）企業成長
第 10 回　基礎テキストの理解（9）組織	第 25 回　基礎テキストの理解（19）企業
第 11 回　基礎テキストの理解（10）組織構造	第 26 回　基礎テキストの理解（20）経営者
第 12 回　基礎テキストの理解（11）インセンティブ	第 27 回　基礎テキストの理解（21）コーポレートガバナンス
第 13 回　基礎テキストの理解（12）計画	第 28 回　基礎礎テキストの理解（22）まとめ
第 14 回　フィールドワークの準備	第 29 回　研究発表（１）前半
第 15 回　研究発表の準備	第 30 回　研究発表（２）後半

※遠隔授業になった場合の対応について：ZOOM、Google Classroom を活用した授業とします。

キーワード	中小企業、ベンチャー企業、経営者
教科書	必要に応じて読んでもらいたい本を紹介します。
参考書	伊丹敬之『新・経営戦略の論理』日本経済新聞社、1984 年 ヘンリー・ミンツバーグ/ブルース・アルストランド/ジョセフ・ランペル『戦略サファリ』東洋経済新報社、2013 年 小池和男・洞口治夫『経営学のフィールド・リサーチ』日本経済新聞社、2006 年 御厨貴編『オーラル・ヒストリー入門』岩波書店、2007 年
評価方法・評価基準	中小企業、ベンチャー企業経営の理解について、グループワーク・フィールドワーク・発表（７０%）、レポート（３０%）などゼミ活動を総合して評価する。 無断欠席の場合は単位取得を認めない。 ※遠隔授業の場合も遠隔授業への出席時の発言、発表、レポートなど総合して行う。
関連科目	「中小企業論Ⅰ」、「中小企業論Ⅱ」、「地域経済論」
履修要件	中小企業論Ⅰを履修すること。 中小企業・ベンチャー企業の調査に参加できること。
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 担当教員が中小企業支援の経験を踏まえ中小企業の現状、課題について解説する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

演習Ⅰ（マーケティング論演習）

（SeminarⅠ“Ｍａｒｋｅｔｉｎｇ”）

担当教員名　　北島　啓嗣				
科目区分　経済：履修不可 経営：専門・★	授業方法　演習	対象学年　３年	開講期　通年	単位数　4

オフィスアワー	毎週水曜日３限（事前にメールで連絡下さい）
メールアドレス	kitahiro　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	ソフト化・サービス化が進む現代の経済において、マーケティングの重要性は大きい。 マーケティング戦略を軸に現代の企業を分析し社会に出て役立つ力を付ける。
到達目標	１　問題発見能力、解決能力の育成。 ２　社会人としてやっていける力をつける。 ３　ゼミその他における発表を通して、プレゼンテーション能力を高める。 本講義はＤＰ②に対応しています。

授業計画・内容

１．２．３．　基礎力醸成

４．５．６．　具体的な戦略論

７．８．９．　さまざまな活用例

10.11.12.13.　ケーススタディ

14.　前期まとめ

15.16.17.18.　発表テーマ設定

19.20.21.22.　ディスカッション

23.24.25.26.　発表準備

27.28.　まとめ

29.30.　総まとめ

【演習内容】

（１）前期は教科書の輪読を中心にする。途中、見学等の活動を行う場合がある。

（２）後期は、チームで、各種の研究大会等へ参加する。

（３）学生の自主性を尊重し、自主ゼミを含め主体的な活動を求める。また、それらの活動をサポートする。

（４）講義時間外、夏休み、春休み等にも活動がある。

他大学に遠征しての研究交流を行う。また合宿等もある。その交通・宿泊、保険等の費用を要する。

他大学に遠征は東京を予定。

遠隔授業になった場合の対応はズームにて対応。

キーワード	マーケティング戦略、流通、定性研究
教科書	沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略』有斐閣アルマ
参考書	都度指定する。
評価方法・評価基準	参加時の発言等 100% ※遠隔授業においても、同様とする。
関連科目	マーケティング論、消費者行動論、広告論、流通論

履修要件	ゼミ募集の際に受講を許可されていること
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 本講義は実務経験のある教員による講義である。具体的内容は授業計画・内容の欄を参照せよ。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	基本的に全出席を求める。 特に発表時の無断欠席は一回で単位取得を認めない。

演習Ⅱ(生産管理論演習)

(SeminarⅡ “Production Management”)

担当教員名　　木野 龍太郎				
科目区分　経済：履修不可 経営：専門・★	授業方法　演習	対象学年　4年	開講期　通年	単位数　4

オフィスアワー	月曜日3・4時限　経済学部棟502研究室
メールアドレス	kino　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	1.「演習Ⅰ」で学んだ内容を基に卒業研究を進め、卒業論文の執筆を進める。 2. 研究構想案を作成し、資料のサーベイや企業などへの実態調査を行って、卒業論文執筆の準備を進めていき、最終的に卒業論文として完成させる。 3. 卒業研究の内容をプレゼンテーション資料にまとめ、卒業論文報告会で報告を行う。
到達目標	1. 卒業研究を通じて学術的・論理的な思考方法を習得し、事物に対する深い分析力を持つことが出来る。 2. 卒業研究の内容を文章やプレゼンテーションで表現する能力を高めることが出来る。 3.　積極的に学外での調査を行うことで、実践的な知識を深めるとともに、実社会で働くうえでの準備をすることが出来る。 ☆本演習は DP 2.　3. に対応しています

授業計画・内容

1. 卒業研究準備(1) ゼミ生による個別テーマ報告
2. 卒業研究準備(2) ゼミ生による個別テーマ報告
3. 卒業研究準備(3) ゼミ生による個別テーマ報告
4. 卒業研究準備(4) ゼミ生による個別テーマ報告
5. 卒業研究準備(5) ゼミ生による個別テーマ報告
6. 卒業研究準備(6) ゼミ生による個別テーマ報告
7. 卒業研究準備(7) ゼミ生による個別テーマ報告
8. 卒業研究報告・研究構想案(1) ゼミ生による個別テーマ報告
9. 卒業研究報告・研究構想案(2) ゼミ生による個別テーマ報告
10. 卒業研究報告・研究構想案(3) ゼミ生による個別テーマ報告
11. 卒業研究報告・研究構想案(4) ゼミ生による個別テーマ報告
12. 卒業研究報告・研究構想案(5) ゼミ生による個別テーマ報告
13. 卒業研究報告・研究構想案(6) ゼミ生による個別テーマ報告
14. 卒業研究報告・研究構想案(7) ゼミ生による個別テーマ報告
15. 企業訪問（予定）
16. 卒業研究報告・序章(1) ゼミ生による個別テーマ報告
17. 卒業研究報告・序章(2) ゼミ生による個別テーマ報告
18. 卒業研究報告・序章(3) ゼミ生による個別テーマ報告
19. 卒業研究報告・第１章(1) ゼミ生による個別テーマ報告
20. 卒業研究報告・第１章(2) ゼミ生による個別テーマ報告
21. 卒業研究報告・第１章(3) ゼミ生による個別テーマ報告

22. 卒業研究報告・第２章(1) ゼミ生による個別テーマ報告

23. 卒業研究報告・第２章(2) ゼミ生による個別テーマ報告

24. 卒業研究報告・第２章(3) ゼミ生による個別テーマ報告

25. インタビュー調査準備

26. インタビュー調査内容報告

27. 卒業研究報告・第３章・終章(1) ゼミ生による個別テーマ報告

28. 卒業研究報告・第３章・終章(2) ゼミ生による個別テーマ報告

29. 卒業研究報告・第３章・終章(3) ゼミ生による個別テーマ報告

30. 卒業論文報告会

※進捗状況などによって変更の可能性がある。

※企業訪問などでは時間を変更する場合がある。

※遠隔授業になった場合は、ZOOM と Google Classroom を用いてライブ形式で実施する予定

キーワード	生産管理　品質管理　製品開発　物流　購買
教科書	担当教員が作成したテキストを講義中に配布。
参考書	斉藤・西岡　『学術論文の技法(新訂版)』　日本エディタースクール出版部 その他、受講生のテーマに応じて適宜指示
評価方法・評価基準	卒業研究(50%)＋卒業論文及び報告会でのプレゼンテーション(50%) 1. 学術的・論理的な思考方法を習得し、事物に対する深い分析力を持つことが出来るたかどうかを、卒業研究報告により評価する。 2. 卒業研究の内容を文章やプレゼンテーションで表現する能力を高めることが出来たかどうかを、卒業論文及び報告会でのプレゼンテーションにより評価する。 3.　積極的に学外での調査を行うことで、実践的な知識を深めるとともに、実社会で働くうえでの準備をすることが出来たかどうかを、卒業論文及び報告会でのプレゼンテー
関連科目	「原価計算論」「管理会計論」「人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ」「経営組織論」
履修要件	「導入ゼミ」、「基礎ゼミ」、「生産管理論Ⅰ」、「同Ⅱ」を履修・単位取得済みであること。 必ず「卒業論文」を履修登録すること。
必要な事前・事後学修	通年で 8-10 回程度の報告担当になるとともに、資料のサーベイや実態調査、報告資料作成など、事前・事後学習の時間を十分に確保することが必要となる。その他の準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 工業製品を開発・製造する企業において生産現場改善に携わった経験がある教員が、その経験を踏まえて演習指導を行うとともに、企業訪問などを行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	・必ず、Google Classroom（GC）の「iiiB★演習Ⅱ（木野）2024 年度」に登録すること（クラスコード: y6vvj3p）※演習Ⅰから継続 ・無断欠席は当該演習の単位を認定しない。

演習Ⅱ（組織情報システムデザイン）

（SeminarⅡ “Organizational Informatics and System Design”）

担当教員名　　藤野　秀則				
科目区分　経済：履修不可 経営：専門・★	授業方法　演習	対象学年　4年	開講期　通年	単位数　4

オフィスアワー	火曜日２限
メールアドレス	fujino　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	各自の興味のあるテーマに基いて、文献レビュー、調査や実験計画の策定、調査や実験の実施、結果の分析、考察を行うとともに、一連の研究活動の成果を卒業論文としてまとめる。
到達目標	・自分自身でPDCAを回していける能力を身につける。 ・卒論執筆を通じて、論理的思考力や文章力を身につける。 ・自分自身で「学習」を組み立て、「大学で学んだこと」の軸を作る。 本講義はDPの3.に対応しています。

授業計画・内容

卒業研究として、各自で研究テーマを設定し、研究活動を遂行していく。最終的に卒業論文として研究成果をまとめる。

前期：研究テーマの策定、研究のレビュー、調査／実験の計画策定

後期：調査／実験の実施、結果の分析と考察、卒論の執筆

・毎週の演習Ⅱの授業時間では、研究の進捗報告や文献のプレゼンテーションを他のゼミ生に対して行ってもらう。

・授業時間以外にも積極的に教員に対して研究の相談を行うこと。

キーワード	ヒューマンファクター、安全管理、情報管理、ヒューマンインタフェース、コミュニケーション、実験、調査
教科書	後日指定する。
参考書	
評価方法・評価基準	研究推進への積極性、ゼミでの議論参加への積極性により評価する。
関連科目	経営情報論、情報管理論
履修要件	不可避の特段の事情がない限り、卒論を提出すること。
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 企業内でシステム開発や人を対象とした実験や調査をした経験に基づいて、人を対象とした実験や調査の実施方法を指導する。

施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

演習Ⅱ（中小企業経営論演習）

（SeminarⅡ “Small business Management”）

担当教員名　　山崎　淳				
科目区分　経済：履修不可 経営：専門・★	授業方法　演習	対象学年　4年	開講期　通年	単位数　4
オフィスアワー	火曜日１限(事前にメールで連絡してください)　経済学部棟703研究室			
メールアドレス	atsushi　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。			
授業概要	中小企業、ベンチャー企業を研究対象とする。演習Ｉでの学習を発展させ、各自の関心のあるテーマを設定し卒業論文の作成に取り組む。また、中小企業を取り巻く環境についての理解を深めるため、その時々の話題となっているニュースを選んで議論を行う。			
到達目標	・中小企業、ベンチャー企業の経営、取り巻く環境について説明することができる。 （DP①経済の運動や企業の行動についての古今の学説を知り、社会科学についての教養を深め、経済社会の仕組みを知る） ・卒業論文の作成をとおして論理的な思考力、分析力、文章力を身に付けることができる。 ・卒業論文の作成をとおして経営者に質問する力をつける。 ・中小企業問題について自らの主張を文章で論理的に示すことができる。 （ＤＰ②現実の経済・経営を分析する能力を持ち、政策について判断する力を身につける。） 本講義はＤＰ			

授業計画・内容

【演習テーマ】

中小企業経営論

【演習内容】

卒業論文のテーマの設定、執筆、発表までの一連の過程を学ぶ

【演習計画】

第１回　卒業論文とレポートの違い

第２回　卒業論文執筆のスケジュール管理について

第３回　卒業論文のテーマ設定（１）前半

第４回　卒業論文のテーマ設定（２）後半

第５回　文献・資料の集め方

第６回　論文の基本構造を考える

第７回　卒業論文の中間報告

第８回　卒業論文の中間報告

第9回　卒業論文の中間報告

第10回　卒業論文の中間報告

第11回　卒業論文の中間報告

第12回　卒業論文の中間報告

第13回　中小企業・ベンチャー企業の調査の準備

第16回　企業見学の報告（１）前半

第17回　企業見学の報告（２）後半

第18回　卒業論文の中間報告

第19回　卒業論文の中間報告

第20回　卒業論文の中間報告

第21回　卒業論文の中間報告

第22回　卒業論文の中間報告

第23回　卒業論文の中間報告

第24回　卒業論文の中間報告

第25回　卒業論文の中間報告

第26回　卒業論文の中間報告

第27回　卒業論文の中間報告

第28回　発表の準備

第 14 回　中小企業・ベンチャー企業の調査の準備　　第 29 回　卒業論文発表（１）前半

第 15 回　卒業論文の中間発表　　第 30 回　卒業論文発表（２）後半

※遠隔授業になった場合の対応について：ZOOM、Google Classroom を活用した授業とします。

キーワード	中小企業、ベンチャー企業、経営者
教科書	必要に応じて読んでもらいたい本を紹介します。
参考書	ヘンリー・ミンツバーグ/ブルース・アルストランド/ジョセフ・ランペル『戦略サファリ』東洋経済新報社、2013 年 堀井朝運『中小企業の経営組織革新』　中央経済社、2012 年 柳孝一・堀井朝運『中小企業の新規事業開発』　中央経済社、2007 年 その他、必要に応じて読んでもらいたい本を紹介します。
評価方法・評価基準	中小企業、ベンチャー企業の経営の特徴について、グループワーク・フィールドワーク・発表（４０%）、レポート（６０%）などゼミ活動を総合して評価する。 無断欠席の場合は単位取得を認めない。やむを得ず欠席する場合は、メール等で連絡すること。 ※遠隔授業の場合も遠隔授業への出席時の発言、発表、レポートなど総合して行う。
関連科目	「中小企業論Ⅰ」、「中小企業論Ⅱ」
履修要件	中小企業・ベンチャー企業の調査に参加できること。
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 担当教員が中小企業支援の経験を踏まえ中小企業の現状、課題について解説する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

演習Ⅱ（マーケティング論演習）

（SeminarⅡ “Marketing”）

担当教員名　　北島　啓嗣				
科目区分　経済：履修不可 経営：専門・★	授業方法　演習	対象学年　4年	開講期　通年	単位数　4

オフィスアワー	原則として毎週水曜日3時限　（事前にメールで連絡ください）
メールアドレス	kitahiro　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	ソフト化・サービス化が進む現代の経済において、マーケティングの重要性は大きい。 マーケティング戦略を軸に現代の企業を分析し社会に出て役立つ力を付ける。
到達目標	１　問題発見能力、解決能力の育成。 ２　社会人としてやっていける力をつける。 ３　ゼミその他における発表を通して、プレゼンテーション能力を高める。 本講義はDP②に対応しています。

授業計画・内容

1.2.3.　基礎力醸成

4.5.6.　具体的な論文

7.8.9.　さまざまな研究法

10.11.12.13.　ケーススタディを書く

14.　前期まとめ

15.16.17.18.　卒論テーマ設定

19.20.21.22.　ディスカッション

23.24.25.26.　発表準備

27.28.　まとめ

29.30.　総まとめ

【演習内容】

（1）前期は卒論のテーマ設定、知識取得を中心にする。途中、見学等の活動を行う場合がある。

（2）後期は、卒論の完成を目指す。

（3）学生の自主性を尊重し、自主ゼミを含め主体的な活動を求める。また、それらの活動をサポートする。

（4）卒論作成は必修である。

また合宿等がある可能性もある。その交通・宿泊、保険等の費用を要する。

遠隔授業になった場合の対応はズームにて対応。

キーワード	マーケティング戦略、流通、定性研究
教科書	沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略』有斐閣アルマ
参考書	
評価方法・評価基準	参加時の発言等100%　※遠隔授業においても、同様とする。
関連科目	マーケティング論、消費者行動論、広告論、流通論
履修要件	卒論を書くこと。

必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 本講義は実務経験のある教員による講義である。具体的内容は授業計画・内容の欄を参照せよ。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	基本的に全出席を求める。 特に発表時の無断欠席は一回で単位取得を認めない。

農業生産・流通政策論

(Food and agricultural Policy)

担当教員名　　堀田　学				
科目区分　経済：専門・選択 経営：関連	授業方法　講義	対象学年　2年	開講期　後期	単位数　2

オフィスアワー	適宜（メールで予約してください）
メールアドレス	horita　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	農業生産、加工、流通等、フードサプライチェーン全体を対象として、政策の変遷と制度の変化について解説します。
到達目標	食料・農業問題全般を対象とした制度・政策を理解することを目的とします。 本講義はDPの1. 2.に対応しています。

授業計画・内容

1．ガイダンス

2．農業生産に関する政策と制度の変遷

3．食糧生産の政策の変遷と実情

4．食料・農業・農村基本法

5．食管法～食糧法

6．小活と討論

7．農産物流通に関する政策と制度の変遷

8．農産物流通の政策の変遷と実情

9．卸売市場法

10. 六次産業化・地産地消法

11. 小活と討論

12. 食料の安全性と食育の推進と制度の変遷

13. 食品安全基本法

14. 食育基本法

15. 総括と討論

注：経済学部（永平寺）・生物資源学部（あわらキャンパス）を交互で対面講義します．対面でない方の学部の学生はzoomで受講してください．対面の回でやむを得ずzoomで受講する場合には事前にご連絡ください．

キーワード	農産物　6次産業　卸売市場　マーケティング
教科書	特に設定しません.
参考書	必要な資料をgoogle classroomで配布します。
評価方法・評価基準	論述形式の試験と平常点を総合して評価します。 遠隔となった場合には、同様のレポートで代用します。
関連科目	

履修要件	特に設定しません
必要な事前・事後学修	
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 講義内容に関連する行政担当者や卸売市場等の現場の方を外部講師としてお招きし，公開講座（学内限定）とする予定です.
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	Google classroom を講義資料の提供にレポート提出等に用いますので，忘れずに登録してください.

経済学特講Ｂ（地域政策の立案）（経営学特講Ｂ）

(Regional Policy Making)

担当教員名　　松原　宏・前田陽次郎				
科目区分　経済：専門・選択 経営：専門・選択	授業方法　講義・実習	対象学年　２年	開講期　後期	単位数　2
オフィスアワー	メールによる予約			
メールアドレス	matubara　の末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。			
授業概要	地域政策の基礎理論や日本の地域政策についての説明を受けた後、各自の関心のある地域と政策的課題を選び、ＲＥＳＡＳなどによる統計分析や他地域の類似政策の参照を行う。各自の地域政策立案の報告と相互の討論を通じて、政策立案と政策評価について学ぶ。			
到達目標	地域政策の基礎理論や日本の地域政策についての理解を深める。ＲＥＳＡＳなどの統計分析手法や図表の作成など、プレゼンテーションの技法を習得する。地域の政策的課題を見出し、具体的に地域政策を立案する仕方を身につける。			

授業計画・内容

第１回：地域政策とは？

第２回：日本の地域政策（１）

第３回：日本の地域政策（２）

第４回：各自の対象地域とテーマについて報告

第５回：ＲＥＳＡＳによる統計分析手法

第６回：ＲＥＳＡＳによる統計分析結果についての各自の報告

第７回：他地域の類似政策の紹介（１）

第８回：他地域の類似政策の紹介（２）

第９回：他地域の類似政策の紹介（３）

第 10 回：政策立案の方法

第 11 回：各自の政策立案についての報告・討論（１）

第 12 回：各自の政策立案についての報告・討論（２）

第 13 回：各自の政策立案についての報告・討論（３）

第 14 回：政策評価の方法

第 15 回：まとめ

※遠隔授業となった場合、Zoom によるオンライン授業を行う。

キーワード	産業立地、地域経済、地域政策、地域イノベーション、ＥＢＰＭ
教科書	特になし
参考書	授業の中で適宜指示する。
評価方法・評価基準	報告・討論の内容と期末レポートの内容により評価する。両者の割合は４：６とする。 ＊遠隔授業の場合も同様
関連科目	経済政策、地方財政論
履修要件	特になし。ただし、実習形式で開講するので，希望者多数の場合は，抽選を行う。

必要な事前・事後学修	日頃から新聞記事などを読んでおくこと。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 担当教員のうち、前田陽次郎は、農産物輸出の会社経営を行っていた。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

非営利組織論

(Non-Profit Organization theory)

担当教員名　　杉本　育				
科目区分　経済：関連 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　3 年	開講期　前期	単位数　2

オフィスアワー	講義の後に質問を受け付けます。
メールアドレス	iku@sugimotoiku-f.jp
授業概要	本講義は福井県で活動する一般財団法人代表者が実践者の知見を交えて講義を行う。非営利組織に関する学術的な知識をもとに、実際に福井県内で活動している組織の事例も交えながら解説を行う。
到達目標	非営利組織について体系的に理解し・説明することができる。地域・社会の中で実際に活動している法人を知り、社会づくりに積極的に取り組める知識を身につける。

授業計画・内容

第 1 回本講義の説明・オリエンテーション

第 2 回非営利組織とは

第 3 回非営利組織を立ち上げる

第 4 回ゲストスピーカー（一般社団法人 PLAY CITY）

第 5 回非営利組織の内部管理

第 6 回非営利組織のマネジメント

第 7 回非営利組織の経営戦略

第 8 回非営利組織を継続するための資源の確保

第 9 回ゲストスピーカー（福井県）

第 10 回組織外との関係性①

第 11 回組織外との関係性②

第 12 回社会的企業、企業の CSR 活動

第 13 回非営利組織のこれから

第 14 回ゲストスピーカー（未定　※非営利組織運営者を予定）

第 15 回まとめ

※ゲストスピーカーについては調整中のため、日程や内容が変更になる可能性があります。

キーワード	非営利組織、NPO、NGO、財団法人、社団法人、市民活動、地域
教科書	なし
参考書	『非営利組織論』有斐閣アルマ　田尾雅夫・吉田忠彦
評価方法・評価基準	各回の授業後に提出するリアクションペーパー（60%） 最終試験（40%）
関連科目	なし
履修要件	なし
必要な事前・事後学修	

実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 福井県内で一般財団法人を運営しており、県内の文化・芸術振興を目的とし助成、支援、事業運営を行ってきた。実際の一般財団法人の運営経験をもとにした解説や、主に県内で活動している他組織の事例を紹介し、身近さを感じながら非営利組織について学べる授業にする。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

広告論

(advertisement)

担当教員名　　北島　啓嗣				
科目区分　経済：関連 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　2年	開講期　前期	単位数　2

オフィスアワー	毎週水曜日３限　（事前にメールで連絡下さい）
メールアドレス	kitahiro　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	マーケティング目標の達成のために、広告を行うが、本講義では参加型の講義、実践を通して学ぶ。PBL を行っていく。
到達目標	広告の入門的なレベルの知識を身に付けるとともに、広告の視座から企業の様々な活動を分析するマインド・思考成を目指す。本講義はDP②に対応しています。

授業計画・内容

広告に軸足を置いた企業の戦略であるマーケティング戦略を次の内容を中心に理解する。

１．イントロダクション

２．広告のいろいろ

３．広告の目標

４．ターゲット市場の分析

５．ターゲット市場の分析２

６．広告のポートフォリオ

７．市場地位別の広告戦略１

８．市場地位別の広告戦略２

９．広告業界の構造分析

10. 関連業界の構造分析

11. ネット戦略

12. アートを学ぶ

13. マーケティングマインドと思考方法

14. 15.　まとめ

理解の程度と進行により、順序を入れ替えることがある。

遠隔授業となった場合はｚｏｏｍとＧＣによる授業を行う。

キーワード	実学　PBL
教科書	なし
参考書	沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略』有斐閣アルマ
評価方法・評価基準	平常点（レポート含む）の総合評価 ＊遠隔授業の場合も同様
関連科目	マーケティング論、消費者行動論、広告論
履修要件	ノートをきちんと取ること。その際、黒板に書かれた事項以外も含めてまとめること。 教科書を購入すること。講義中に発言を求める。発言しない場合、欠席と見なす。

必要な事前・事後学修	参考書等の予習、ノートの復習
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 本講義は実務経験のある教員による講義である。具体的内容は授業計画・内容の欄を参照せよ。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	遠隔授業になった場合の対応はクラスルームにて対応 本年度限りで閉講になります。

産業デザイン

(Industrial design)

担当教員名　　黒田　宏治				
科目区分　経済：関連 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　３年	開講期　前期集中	単位数　2

オフィスアワー	講義の前後に質問等を受け付けます。
メールアドレス	pt-k.kuroda-g　末尾に「@」と「g.fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	日本の産業デザインの領域・特性および最近の動向等について概括するとともに、企業経営、地域振興における戦略的デザイン展開についてケーススタディーを交えて紹介する。
到達目標	企業経営や地域振興において戦略的なデザイン活用の重要性が増すなかで、デザインの捉え方、デザインの営みや広がり、デザイナーの職能等への理解の端緒となり、またデザインと企業、地域、社会との多様なかかわりやデザインの有用性への視角を得られるものと考えている。

授業計画・内容

1　ガイダンス

2　メディアにみるデザインの動向

3　デザイン産業の規模・分布等

4　日常性の中のデザイン

5　グッドデザイン賞の概要

6　グッドデザイン賞の最新動向

7　企業経営とデザイン戦略(1)

8　企業経営とデザイン戦略(2)

9　デザイン思考とイノベーション

10　ソーシャルデザイン、サービスデザイン

11　地域産業とデザイン展開(1)

12　地域産業とデザイン展開(2)

13　地域とデザインプロノーション

14　産業財産権とデザインなど

15　まとめ

16　試験

上述の授業計画を目安とするが、授業実施に向けての内容検討の中で変更となる場合がある。途中、　ゲストスピーカー（デザイン関係実務家）の招聘を検討の予定である。具体的には初回授業ないし開講前に案内の予定である。遠隔授業となった場合には、ZOOMによるオンライン授業を想定する。

キーワード	デザイン、産業、社会、地域、マネジメント、ストラテジー
教科書	特になし。必要な資料は適宜配布する。
参考書	必要な図書資料・情報等は適宜案内する。
評価方法・評価基準	筆記試験（レポート）　約40%　平常点　約60% 産業デザイン動向の理解や探究試行について小課題、筆記試験等により評価する。

	遠隔授業になった場合には、期末試験のレポートへの変更等を検討する。
関連科目	
履修要件	
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり デザイン系シンクタンクに勤務経験のある教員が、その経験を活かして企業経営や地域振興における戦略的デザイン活用の考え方や方法等について講義する
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	最新のデザイン状況に関してはゲストスピーカー講義、DVD 映像等も織り交ぜてドキュメンタリーな情報伝達に努めたい。 経済・経営系学生にはまだ馴染みの薄い分野ではと考えます。授業を通して、　　デザインと何らかの接点を見出されること、視野を広げられることを期待したい。 実務経験のある教員による授業科目（巻末参照）

地域マネジメント論

(Regional management)

担当教員名　　杉山　友城				
科目区分　経済：専門・選択 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　2年	開講期　後期	単位数　2

オフィスアワー	授業の後やメールで対応します。
メールアドレス	tomoki　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	地域マネジメント論では、安全安心な地域社会のあり方を企画・立案し、まちづくりを実践・運営し、適切に経営管理していく理論と技術を学びます。特に、地域創生（まちづくり）や地域産業集積に関する諸理論の視点や事例からのアプローチを試みます。
到達目標	地域資産の活用、産業振興、防災防犯、情報システム、環境、福祉、伝統文化の継承など、地域マネジメントが扱う分野は幅広くなっています。そうした中で、地域社会のマネジメント（適切な経営管理）に携わる実践者に必要な理論や事例を理解ことが求められます。また、受講生自らが実践者として活動するために何ができるのかを考えられる力を身に着けることを目指します。 なお、本講義はDPの2. 3に対応しています。

授業計画・内容

＜イントロダクション＞

第１回　　地域マネジメントとは何か？（課題と方法）

＜理論編＞

第２回　　地域マネジメントと国土計画の歩み

第３回　　国土形成計画、人口減少と地域マネジメント

第４回　　消滅可能性都市と誇りの空洞化

第５回　　地方創生とは何か

第６回　　産業集積と福井の産業特性

第７回　　脱炭素社会と創造都市

＜事例編＞

第８回　　地域マネジメント事例①―福井県小浜市の「食のまちづくり」

＜確認編＞

第９回　　中間テスト

＜事例編＞

第１０回　地域マネジメント事例②―福井県小浜市の「若狭塗箸産地」

第１１回　地域マネジメント事例③―静岡県浜松市の産業集積と創造都市政策

＜検討編＞

第１２回　ゲストスピーカー（予定）

第１３回　地域ブランディングと地域マネジメント

第１４回　キー・パースンと地域マネジメント

＜コンクルージョン＞

第１５回　地域マネジメント実践に向けて（まとめ）

【遠隔授業となった場合の対応】

・ZOOM によるオンライン授業とします。

キーワード	地域創生、産業集積、創造性、地域ブランディング、地域リーダー
教科書	杉山友城（2020）『地域創生と文化創造』晃洋書房 その他、教員が作成した講義資料を使って授業を進める。
参考書	佐々木雅幸（2001）『創造都市への挑戦』岩波書店、杉山友城編（2022）『新しい＜地方＞を創る』晃洋書房
評価方法・評価基準	中間試験（30%）、期末試験（70%）。地域マネジメントに携わる実践者に必要な理論や事例の理解度を中間試験および期末試験によって評価する。 ※遠隔授業においても、同様とする。
関連科目	文化経済学、地域経済論、経営学総論Ⅰ・Ⅱ、社会システム論、マーケティング論
履修要件	特になし。
必要な事前・事後学修	準備学習および事後学習（2 時間）、内容は、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 税務会計系コンサルティングファームでの中小企業経営支援や地方公共団体での産業政策立案など、産と官での業務経験を活かした実践型の講座を開講。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	履修規程第 9 条[単位の授与]に基づき、出席時間数が当該授業科目の全時間数の 3 分の 2 に満たない学生には、原則として単位を与えない。

専攻演習Ⅱ　経営情報特論演習Ⅱ

(Advanced SeminarⅡ: Organizational Informatics)

担当教員名　　藤野　秀則				
科目区分　専攻演習Ⅱ	授業方法　演習	対象学年　1年後期～2年前期	開講期　後期集中	単位数　4

オフィスアワー	―
メールアドレス	fujinoの末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	毎回、自身のテーマの論文を読み進め、自身の「問」に関する既往研究の全体像を整理するとともに、「問い」から修士研究に向けた具体的なリサーチクエッションを明確化する。その後、そのリサーチクエッションの答えを明らかにするための研究計画を立て、その計画に従って研究(具体的な調査や実験)を進めていく。
到達目標	「情報管理を通じた人や組織の管理」というコンセプトについて、主に心理学や社会学、情報学の分野での最新の研究状況を把握するとともに、自分自身の研究の問を明確にし、その問いに対する解を得るための実践計画を立てる。 本講義はDPの3. 4.に対応しています。

授業計画・内容

1年生後期:

リサーチクエッションの設定

研究テーマにそった関連研究のレビュー

調査/実験の計画の立案

予備調査の実施

2年生前期:

調査/実験の実施

データ分析と考察

研究成果の報告

※遠隔授業となった場合には、Zoomでのオンライン授業とします。

キーワード	
教科書	別途指示する。
参考書	
評価方法・評価基準	報告内容、討論における発言など平常点を重視する(100%)
関連科目	
履修要件	
必要な事前・事後学修	
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 企業内でシステム開発や人を対象とした実験や調査をした経験に基づいて、人を対象にした実験や調査の実施方法を指導する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	

その他	準備学習については、教員が講義時に指示する。 企業での実務経験のある教員による科目

専攻演習Ⅱ　生産管理・生産革新論演習Ⅱ

(Advanced SeminarⅡ: Production Management ・ Production Innovation)

担当教員名　木野 龍太郎					
科目区分　専攻演習Ⅱ	授業方法　演習	対象学年　MC1 年後期-2 年前期	開講期　後期集中	単位数　4	
オフィスアワー	月曜日 3・4 限　経済学部棟 502 研究室				
メールアドレス	kino　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。				
授業概要	1.　文献・資料のサーベイを行って先行研究をフォローする。 2. 専攻演習Ⅰで作成した「修士論文構想案・研究計画案」を練り上げて、修士論文の方向性を定めていく。 3. 企業などへの実態調査を実施し、その内容について分析・考察を行う。				
到達目標	1. 生産技術(製造技術・製品技術)を軸とした、モノづくりの競争力の具体的な中身について理解を深めることが出来る。 2. 「専攻演習Ⅰ」で作成した「修士論文構想案･研究計画案」に基づいて、関連する先行研究をフォローすることが出来る。 3. 企業などへの実態調査を実施し、その内容について分析・考察を行うことで実態について知見を深めることが出来る。 4.　修士論文中間報告会の資料を作成・報告を行うことで、修士論文の内容及び進捗状況を確認することが出来る。 ☆本演習は DP 1.　2.　に対応していま				

授業計画・内容

1. 「修士論文構想案･研究計画案」の再検討(1)
2. 「修士論文構想案･研究計画案」の再検討(1)
3. 文献･資料のサーベイ報告(1)
4. 文献･資料のサーベイ報告(2)
5. 文献･資料のサーベイ報告(3)
6. 文献･資料のサーベイ報告(4)
7. 文献･資料のサーベイ報告(5)
8. 文献･資料のサーベイ報告(6)
9. 文献･資料のサーベイ報告(7)
10. 文献･資料のサーベイ報告(8)
11. 文献･資料のサーベイ報告(9)
12. 文献･資料のサーベイ報告(10)
13. 文献･資料のサーベイ報告(11)
14. 文献･資料のサーベイ報告(12)
15. 修士論文・全体構成検討(1)
16. 修士論文・全体構成検討(2)
17. 修士論文・全体構成検討(3)
18. 修士論文・全体構成検討(4)
19. 聞き取り調査計画作成(1)
20. 聞き取り調査計画作成(2)

21. 聞き取り調査・実施(1)

22. 聞き取り調査・実施(1)

23. 聞き取り調査内容とりまとめ(1)

24. 聞き取り調査内容とりまとめ(1)

25. 修士論文中間報告会・報告資料作成(1)

26. 修士論文中間報告会・報告資料作成(2)

27. 修士論文中間報告会・出席及び報告(1)

28. 修士論文中間報告会・出席及び報告(2)

29. 修士論文中間報告会内容の見直し(1)

30. 修士論文中間報告会内容の見直し(1)

※受講者数によっては、若干の変更もありうる。

※ 無断欠席は厳禁（単位を認定しない)。

※ ゼミを優先し、遅刻しないこと。

※ 遠隔授業になった場合は、ZOOM と Google Classroom を用いてライブ形式で実施する予定。

キーワード	
教科書	・片岡信之･斉藤毅憲･佐々木恒男･高橋由明･渡辺峻共編著『経営･商学系大学院生のための論文作成ガイドブック(改訂版)』文眞堂
参考書	・藤本隆宏『生産マネジメント入門Ⅰ』および『生産マネジメント入門Ⅱ』日本経済新聞社 ・井上秀次郎･安達房子編『企業と社会が見える経営学概論』大月書店
評価方法・評価基準	報告内容(50%)＋修士論文中間報告会の内容(50%) 1. 生産技術(製造技術・製品技術)を軸とした、モノづくりの競争力の具体的な中身について理解を深めることが出来たかどうかについて、報告内容により評価する。 2. 「専攻演習Ⅰ」で作成した「修士論文構想案･研究計画案」に基づいて、関連する先行研究をフォローすることが出来たかどうかについて、報告内容により評価する。 3. 企業などへの実態調査を実施し、その内容について分析・考察を行うことで実態について知見を深めることが出来たかどうかについて、報告内
関連科目	会計学特論、管理会計特論、人的資源管理特論
履修要件	原則として「専攻演習Ⅰ　生産管理・生産革新論演習Ⅰ」及び 「生産管理・生産革新論」の履修を終えていること。
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 工業製品を開発・製造する企業において生産現場改善に携わった経験がある教員が、その経験を踏まえて演習指 導を行うとともに、企業訪問などを行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	・受講希望者は「修士論文構想案・研究構想案」を作成して、事前に必ず担当教員に相談すること。 ・無断欠席は当該演習の単位を認定しない。

専攻演習Ⅱ　マーケティング戦略論演習Ⅱ

(Advanced Seminar Ⅱ : Marketing Strategy)

担当教員名　　北島　啓嗣				
科目区分　専攻演習Ⅱ	授業方法　演習	対象学年　1年後期～2年前期	開講期　後期集中	単位数　4

オフィスアワー	―
メールアドレス	kitahiro　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	リサーチクエッションとは何か・事例とは何か・事例研究の方法論・事例から理論へ・既存理論の取り扱いとは・実践
到達目標	専攻演習Ⅰからの受講が望ましい。 マーケティング戦略論のための定性的研究方法のレクチャーを受けて、自らの問題意識を論文化する。 本講義はDP①、②に対応しています。

授業計画・内容

リサーチクエッションとは何か

事例とは何か

事例研究の方法論

事例から理論へ

既存理論の取り扱いとは

実践

キーワード	修士論文
教科書	受講者と話し合って決定する。 ※指定する教科書　複数を必ず購入し、熟読すること。
参考書	
評価方法・評価基準	レポート　5000字程度
関連科目	
履修要件	原則として演習1受講者
必要な事前・事後学修	
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	準備学習については、教員が講義時に指示する。遠隔授業になった場合の対応はズームにて対応。

	連絡はFacebook で行います。

演習Ⅰ（中国経済論）

(Seminar Ⅰ: Economics of China)

担当教員名　　加藤　健太郎				
科目区分　経済：専門・★ 経営：履修不可	授業方法　演習	対象学年　3年	開講期　通年	単位数　4

オフィスアワー	随時（事前にメール連絡してください）
メールアドレス	kenkato 末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	中国がアジア・世界においてますます存在感を高める中、感情論を超えて中国を客観的に捉え、個人、企業、日本が、これから中国とどう付き合っていくべきかを考える。 1.中国(経済)に関する知識を深める → テキストを輪読します 2.中国とどう付き合っていくか考える → 問題意識に基づいてディスカッションします 3. わかりやすく説明する → 自分の意見やディスカッションの内容をまとめて発表します
到達目標	【本講義はDP 3. に対応しています】 1. 中国(経済)に関する知識を深める 2. 中国の動向を日本・世界や自分との関わりの中で考える 3. 自分の考えをほかの人に伝える、ことを通じて、社会人として必要な「情報収集能力」、「分析力」、「表現力」を 身につける

授業計画・内容

【前期】テキストを輪読して基礎力をつけます。

・毎回、司会者、報告者、討論者、書記を決めた上で、全員で議論します。

・中国に関する知識を深める中で、それぞれの問題意識を高めます。

【後期】「ゼミナールコンテスト」（12月末）への参加を目指します。

・グループで課題設定、議論、プレゼンの準備をおこないます。

・随時、進捗状況を発表します。

・「ゼミコン」終了後（1月）は、「期末レポート」及び「演習Ⅱ」・「卒論」に向け、

各自の研究テーマについての発表会をおこないます。

※夏休み（後期前）に「ゼミコン」に向けた合宿をおこなう予定です。

キーワード	「情報収集能力」、「分析力」、「表現力」　＋　「行動力」
教科書	随時、指示します
参考書	随時、指示します
評価方法・評価基準	積極性・主体性、発表・発言内容(50%)、期末レポート（3～4千字）(50%)
関連科目	中国経済論、中国の企業と経済
履修要件	中国に関心があること、問題意識を持っていること

必要な事前・事後学修	テキストの精読、発表準備、意見集約
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 中国に関わる実務経験者をゲストスピーカーとして招聘する予定。状況によっては、変更の可能性もあります。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	※　連絡に Google Classroom も使用します。必ず登録してください。 ※　遠隔授業となった場合は、原則として Zoom で実施します。

演習Ⅰ（地域創生・地域マネジメント）

（Regional Reviitalization・Regional Management Ⅰ）

担当教員名　　杉山　友城				
科目区分　経済：履修不可 経営：専門・★	授業方法　演習	対象学年　３	開講期　通年	単位数　4

オフィスアワー	授業の後やメールで対応します。
メールアドレス	tomoki　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	人口減少時代、少子化・超高齢社会、カーボンニュートラルの実現など、地域や企業が抱える問題が多様化・複雑化しています。こうした受難の時代を乗り越え、貢献できる力を身に着けるための、理論と実践を学びます。
到達目標	・テクニカルスキル（実務力）、ヒューマンスキル（人間関係構築力）、コンセプチュアルスキル（概念化能力）の習得を目指します。 ・理論の理解力と、実践するための熱意、能力、考え方を高めます。 ・問題発見力、課題設定力、戦略構想力、活動実行力、成果評価力を磨きます。 なお、本演習はDPの1. 2. 3 に対応しています。

授業計画・内容

【演習のテーマ】

・持続可能な地域や企業を創るためのマネジメントに関する理論と実践について学びます。

【演習の内容】

・原則「演習Ⅰ・Ⅱ」を履修し、卒業論文の執筆が最終目標になります。

・理論と実践の両面を重視します。

①テキストの輪読によって地域創生や地域マネジメントの理論と実践の理解を深めます。

②履修学生の自主性や積極性を尊重し、フィールド実習（地域活動への参加、企業訪問など）を行います。

・履修者共通の研究テーマと個別研究テーマを決めて、通年で研究を進めます。

※遠隔授業になった場合は、Zoomによるオンライン授業とします。

キーワード	持続可能な経営、地域活性化、企業永続、地域人材、幸福経営
教科書	都度、指示します。
参考書	杉山友城編著『新しい〈地方（ふるさと）〉を創る』晃洋書房
評価方法・評価基準	自主性、積極性、他の履修学生（仲間）とのコミュニケーションの度合い、資料の作成・発表の品質など、総合的に判断して評価します（100%）。 ※1度でも無断欠席をした場合は、単位を与えることができません。
関連科目	地域マネジメント論、文化経済学、地域経済論、経営学総論Ⅰ・Ⅱ、社会システム論、マーケティング論
履修要件	「地域マネジメント論」を履修している（する）ことを要件とします。
必要な事前・事後学修	事前学習や事後学習については、その都度指示します。

実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 税務会計系コンサルティングファームでの中小企業経営支援や地方公共団体での産業政策立案など、産と官での業務経験を活かした実践型の講座を開講。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

外書講読Ⅰ（早川）

(Reading of Foreign Economics TextⅠ)

担当教員名　　早川　貴				
科目区分　経済：履修不可 経営：専門・★	授業方法　講義	対象学年　2年生	開講期　後期	単位数　2

オフィスアワー	特に定めません。面談等の要望には都度対応しますので、下記のメールアドレス宛に連絡してください。
メールアドレス	haytak ※この後に@fpu.ac.jp を付けてください。
授業概要	このクラスでは、折々の英文ビジネス・ニュースを共有して読み進め、時々のトピックに関する討論を交えながら、経営・経済の専門的な語彙と知見を広げてゆきます。
到達目標	①英文のビジネスニュースを読むことに抵抗感が無くなり、むしろ積極的に接触する姿勢を身につける。 ②英語でビジネス実践に取り組む際、専門教養的な水準で求められる知識と語彙力を身につける。

授業計画・内容

このクラスの運営は GoogleClasroom （クラスコード：i5u4wyp）と附属の GoogleMeet を中心に進めます。必ず登録してください。

折々のビジネスニュースを 責任レポーター＆責任コメンテーター制で共有し、そのニュースを理解するのに必要な語彙と専門的知見を併せて学習します。

第1週：遠隔授業

　当クラスの運営方針等について教員から提案し、受講者諸君の意見を踏まえて細部を詰めた後、合意・共有します。

第2週～第4週： 対面授業の予定

　遠隔授業のクラスですが、メンバーの対面での交流を図り、週ごとの レポート と コメント の担当体制などについて、対面での試行錯誤と協議を重ねながら詳細を詰めて行きます。

第5週～第15週

　第4週までに確定するテキストとスケジュールに基づいて、テキストの内容を責任レポーター＆責任コメンテーター制で学んでゆきましょう。

※ 上記のｊ業内容とスケジュールは受講者の関心・意欲の傾向により期中に柔軟に変更・調整されることがあります。

キーワード	business, marketing, strategy, english, language,
教科書	リチャード・シーハン（訳・藤井正嗣）『音声DL BOOK 新版 英語で学ぶMBAベーシックス』, NHK出版, 2022年.. を予定していますが、最終的には受講メンバーとも協議のうえ決定します。.
参考書	授業内で適宜、紹介します。
評価方法・評価基準	平常評価（授業参加状況。レポーター、コメンテーターとしての責任遂行を基本として、クラスの議論に積極的・追加的に貢献した程度を評価する）100%
関連科目	経営関連科目全般
履修要件	特に設けません。

必要な事前・事後学修	レポーター、コメンテーターとして必要な予復習に加え、CNBC、Reuters 等の英文コンテンツに日頃から親しむようにしてください。グローバル版と日本語版では扱われるニュースが異なることが少なくありません。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり ただし、実務経験とこのクラスの内容が特に密接にリンクすることはありません。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

公益事業論

(Public Utilities)

担当教員名　　山本　涼平				
科目区分　経済：専門・選択 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　2 年	開講期　前期集中	単位数　2

オフィスアワー	メール、オンラインツールにより随時
メールアドレス	メールアドレス確定後に通知します
授業概要	公益的な事業を行なう企業の活動、介入する政府の動機、社会での役割を学修します。公益的な事業とは広く社会活動の基盤となる事業のことで、エネルギー、通信、交通が3本柱です。それらの産業・企業の基本的な制度、歴史、根拠となる経済理論を学修します。
到達目標	① 公益事業の概要、公益事業を行なう企業・組織の活動と社会における機能・役割について理解し、論理的に説明できるようになる ② 経済理論に立脚して公益事業および公益企業と政府の関係を理解でき、基本的な用語や概念を用いて分析できるようになる ③ 今後の社会や地域を持続・発展するために、公益事業の課題を解決する施策を立案することができるようになる ※本講義はDP2に対応しています。

授業計画・内容

※企業と生産活動の基本的な仕組みを理解したうえで、公益事業がなぜ「公益」と呼ばれるのか、公益事業に政府が介入する事例を概観します。

第 1 回　イントロダクション：公益事業とは

第 2 回　企業の仕組みと生産活動

第 3 回　公益事業と公企業

第 4 回　政府の介入と民営化

※政府が市場や企業に介入することがなぜ正当化されるのかの根拠を、経済理論を用いて考えます。

第 5 回　市場の失敗

第 6 回　独占の問題

第 7 回　規制の理論と公共料金

第 8 回　規制政策と規制緩和

※身近な公益事業に関する歴史や制度、課題について考えます。

第 9 回　エネルギー事業①（電力）

第 10 回　エネルギー事業②（ガス・水道）

第 11 回　通信事業①（電気通信・放送）

第 12 回　通信事業②（郵便事業）／ ユニバーサルサービスとしての公益事業

第 13 回　交通事業①（道路）

第 14 回　交通事業②（鉄道・バス・航空）

第 15 回　福井県内の公益事業　／ 総括

進度により、予定の内容を分割して調整する場合があります。

遠隔授業（リアルタイム配信）として実施する予定ですが、一部を対面授業で実施する場合があります。決定次第、連絡します。

キーワード	公益事業，自然独占，市場の失敗，規制，企業統治
教科書	使用しません。講義資料を配布します。
参考書	塩見英治編『現代公益事業　ネットワーク産業の新展開』有斐閣ブックス，2011 年
評価方法・評価基準	期末試験　100% ※授業の活性化に資する積極的な発言等は満点を超えない範囲で加点することがあります。 ※履修規程に則り、出席回数が授業回数の 3 分の 2 に満たない場合は成績評価の対象としません（オンライン授業でも確認します）。 ※試験は対面で実施する予定です。オンラインで実施する場合は、課題となります。初回の授業で説明します。
関連科目	ミクロ経済学Ⅰ/Ⅱ，産業組織論，財政学，経営学総論Ⅰ/Ⅱ，企業論，会社法
履修要件	関連科目のうち少なくとも 2 科目を履修済みで、内容をよく理解していることが望ましい。
必要な事前・事後学修	資料は事前にオンラインで配布するので、授業までに目を通してください。資料には授業外学修（練習問題）を掲載するので、復習に活用してください（合わせて 4 時間程度）。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 実務経験者による講義（港湾インフラに関する調査経験）
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	諸連絡や資料の配布等に Google Classroom（GC）を利用する予定です。履修する場合は、必ず事前に GC のクラスに登録し、適宜確認してください。GC に登録・確認していないことによって重要な事前連絡を得られなかったとしても、教員は関知しません。

基礎ゼミ（起業家の能力を考える）

(Basic Seminar "The study on ability of entrepreneurs")

担当教員名　　山崎　淳				
科目区分　経済：履修不可 経営：専門・★	授業方法　演習	対象学年　2年	開講期　前期	単位数　2

オフィスアワー	火曜日1時限（事前にメールで連絡してください）経済学部棟703研究室
メールアドレス	atsushi 末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	起業家は、独創性を発揮して新しい事業を創出し、新たな市場を切り拓いている。ベンチャー企業の要である「起業家」（アントレプレナー）の特徴を本、新聞、雑誌、映像などの様々な資料をとおして理解する。
到達目標	・事例をもとに起業家の特徴を説明することができる。 ・自ら調査・分析し、その結果を伝えることができる （DP②現実の経済・経営を分析する能力を持ち、政策について判断する力を身につける）。 本講義はDP②に対応しています。

授業計画・内容

第1回　ベンチャー企業の特徴

第2回　ベンチャー企業の起業家の特徴

第3回　起業家のバックグラウンド

第4回　ベンチャー企業について調べる　　企業概要、沿革の確認

第5回　分析するベンチャー企業、起業家の選定

第6回　ベンチャー企業、起業家の分析方法の確認

第7回　ベンチャー企業に関する本から学ぶ（１）起業家の問題意識力

第8回　ベンチャー企業に関する本から学ぶ（２）起業家の変革力

第9回　中間発表

第10回　　ベンチャー企業に関する本から学ぶ（３）起業家の実行力

第11回　ベンチャー企業に関する本から学ぶ（４）起業家のマネジメント力

第12回　起業家の分析

第13回　起業家の分析結果の発表準備

第14回　起業家の分析結果の発表

第15回　起業家の分析結果の発表とまとめ

※遠隔授業になった場合の対応について：ZOOM、Google Classroomを活用した授業とします。

キーワード	起業家、経営者、ベンチャー企業、中小企業
教科書	必要に応じてその都度指定します。
参考書	本、新聞、雑誌などその都度指定します。
評価方法・評価基準	起業家への理解について、授業中の課題50%、発表50%により評価する。 ※遠隔授業の場合も遠隔授業への出席時の発言、発表、レポートなど総合して行う。
関連科目	中小企業論Ⅰ、中小企業論Ⅱ

履修要件	起業家に興味があること。
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 担当教員がベンチャー企業支援の経験を踏まえベンチャー企業の現状、課題について解説する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	特になし

福祉のまちづくり論

(Community Development)

担当教員名　　佐野　治				
科目区分　共通関連科目（経済）選択	授業方法　講義	対象学年　２年	開講期　後期集中	単位数　2

オフィスアワー	水曜日５限
メールアドレス	sano162 末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	生活課題を解決するための地域福祉活動を介したまちづくりについて論述します。小地域（自治会、学区）単位での個別支援と地域支援およびシステム構築のそれぞれの活動を念頭に、公（市町村）と民（自治会、社会福祉協議会、法人、NPO、民生委員）の一体的なまちづくりを解説します。福祉のまちづくりによる地域住民・高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉分野の諸問題や課題の解決策や予防策を事例を通して考察します。
到達目標	福祉のまちづくりに必要な社会福祉の基本的な考え方や歴史が理解できる。 我が国における福祉まちづくりの歴史的経緯を理解できる。 社会福祉計画（行政、民間）からみる福祉のまちづくりを理解できる。 福祉のまちづくりによる地域生活課題を解決するための個別支援・地域支援・システム構築について把握できる。 福祉のまちづくりにおけるシステム構築を通して地域生活課題の解決や予防について理解できる。 （本授業はDP1,5に対応している）

授業計画・内容

第１・２回　福祉のまちづくりに必要な社会福祉学の基本的な考え方と生活課題の把握

第３・４回　社会福祉学の歴史的考察（欧州）と福祉のまちづくりの歴史（日本）

第５・６回　社会福祉計画（行政計画；市町村、民間計画；社協）から考察する福祉のまちづくり

第７・８回　地域コミュニティ型組織（隣組、自治会）を軸に構築する福祉のまちづくり（早期発見－早期つなぎ－早期相談－早期サービス確保→見守り・支え合い・助け合い）

第９・10回　福祉のまちづくりによる高齢者福祉課題（認知症、寝たきり）の解決策と予防策

第11・12回　福祉のまちづくりによる児童福祉課題（不登校、発達障害、虐待）の解決策と予防策

第13・14回　福祉のまちづくりによる障害者福祉課題（精神障害）の解決策と予防策

第15回　福祉のまちづくりの今後の課題

遠隔授業となった場合には、Zoomでのオンライン授業とGCでの資料配布、授業後の質問/解答記入を基本とする。

キーワード	地域共生社会　地域福祉　社会資源　まちづくり　well-being
教科書	資料を配布する。
参考書	適宜紹介する。
評価方法・評価基準	授業への参加態度・主体的参加（２０%）、期末試験（５０問の知識を問う穴埋め問題５０問×２点＝１００、６０点以上合格）（８０%）
関連科目	地域福祉論、高齢者福祉論、児童福祉論、障害者福祉論

履修要件	
必要な事前・事後学修	準備学習については教員が各講義時に指示する。福祉の諸課題について各自で調べて授業に臨むこと（60 分）
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 高齢者福祉施設、子ども家庭相談員
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

特別企画講座Ｅ（サステイナブルな地域経済活性化と国内外観光産業論）

(Sustainable Local Economic Revitalization, and D/I Tourism Industry)

担当教員名　　藤野秀則/阪田徹/神宮千夏 /岩井宏太/佐々木祐貴 他				
科目区分　経済：専門・選択 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　3 年	開講期　前期集中	単位数　2
オフィスアワー	メールによる予約			
メールアドレス	b-fujino 末尾に「@」と「g.fpu.ac.jp」をつけてください			
授業概要	先進国の地方における地域経済活性化は、世界最難関の国際問題であると国際連合は報告している。日本は地域経済活性化に有効とされている地域観光産業を、国策として強力に推進しているが、思いのほか伸び悩んでいる。本講義では、「産業科学、心理学、脳科学」などの融合科学的知見をもとに、「サステイナブル（持続可能）な地域経済・産業活性化」に関する理論的かつ実践的な学びを提供するものである。			
到達目標	・サステイナビリティ、地域活性化、観光産業に関する融合科学的知見への理解を深める。 ・学際的理論や知見を日本の地域社会問題に当てはめて分析し、課題解決のための思考力を養成する。 本講義は DP の 2. に対応しています。			

授業計画・内容

受講希望者多数の場合には選抜を行う場合がありますので，必ず事前に Google Classroom の登録を行い、「授業」タブのなかの「履修希望者へ」を確認の上、事前の履修希望申請を 4 月 12 日午前 9:00 までにしておいてください（詳しくは第 0 回講義でお知らせします）。

（4 月 9 日 4 限目）

第 0 回　オリエンテーションと人数が多かった場合の抽選申込について

（4 月 23 日 4 限目・5 限目）

第 1 回　観光・文化・地域産業の高付加価値・高単価の実現のためのリベラルアーツと科学的思考の重要性

第 2 回　　なぜ先進国の地方の地域経済活性化は、「世界最難関の国際問題」なのか 1 自己責任と言われる地域活性化の難しさとは

（4 月 30 日 4 限目・5 限目）

第 3 回　　なぜ先進国の地方の地域経済活性化は、「世界最難関の国際問題」なのか 2 地域貢献と社会貢献の相違点

第 4 回　　なぜ先進国の地方の地域経済活性化は、「世界最難関の国際問題」なのか 3 社会貢献と社会制度の関係性

（5 月 14 日 4 限目・5 限目）

第 5 回　　なぜ先進国の地方の地域経済活性化は、「世界最難関の国際問題」なのか 4 産官学連携はなぜ困難なのか?

第 6 回　　なぜ先進国の地方の地域経済活性化は、「世界最難関の国際問題」なのか 5 地域活性化が失敗するパターンとは

（5 月 28 日 4 限目・5 限目）

第 7 回　　なぜ世界の産業が大きくシフトし、観光産業だけが右肩上がりなのか

第 8 回　観光コンテンツとは何か 1 【食文化・宿泊施設の観光コンテンツ】

（6 月 11 日 4 限目・5 限目）

第 9 回　観光コンテンツとは何か 2 【自然環境、景勝地などの観光コンテンツ】

第 10 回　観光コンテンツとは何か 3 【歴史、伝統文化の観光コンテンツ】

（6 月 25 日 4 限目・5 限目）

第 11 回　観光コンテンツとは何か 4 【芸術品、工芸品の観光コンテンツ】

第 12 回　観光コンテンツとは何か 5 【美術館、博物館、展示施設などの観光コンテンツ】

（7 月 9 日 4 限目・5 限目）

第 13 回　観光コンテンツとは何か 6 【VIP 用特別体験などの観光コンテンツ】

第 14 回　福井の国際観光コンテンツの創造 ——福井の食文化コンテンツで高付加価値ガイドの実践

（7 月 23 日 4 限目）

第 15 回　社会をにぎやかに——福井の取組と未来(阪田博士とオールコネクト岩井社長とのシンポジウム形式)

※　本講義ではグループディスカッションを実施する予定です。

※　講義の進行具合により、一部内容に変更がある場合があります

★本講義は株式会社 ALL CONNECT からに寄付による、経済学部と ALL CONNECT との連携事業です。

キーワード	地域経済活性化、サステイナビリティ、国際観光戦略、産業科学、心理学、脳科学
教科書	各回で配布する資料をもとに講義を進める
参考書	阪田 徹 Ph.D., 2025, サステイナブルな国際観光と地域文化の総合科学, 文化産業科学学会(2025 年 出版予定)
評価方法・評価基準	レポート試験で評価する。
関連科目	
履修要件	特に無し
必要な事前・事後学修	その都度、指示する
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり ALL CONNECT に所属するメンバおよびその顧問が、ALL CONNECT グループが行っている学際的な地域プロジェクトを踏まえた講義である。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

経済学特講Ｃ・経営学特講Ｃ（「行政のリアル」）

（経済学特講Ｄ・経営学特講Ｄ（「地方行政のリアル」））

担当教員名　　廣瀬弘毅，新宮晋，岡原直人				
科目区分　経済：専門● 経営：専門●	授業方法　講義	対象学年　2	開講期　前期集中	単位数　2

オフィスアワー	水曜日２限目
メールアドレス	hirose@fpu.ac.jp
授業概要	地方行政が取り組む課題について，自治体の関係者のアドバイスを受けながら自分たちで調べ，議論し，最終的なプレゼンテーションまで行う，GW 形式の講義になります。
到達目標	自分たちの力で地域が抱える課題を発見し，それを言語化すること。さらに，現実を見据えながら，可能な解決策を見つけたり，あるいは解決の障害となっている要因つけたりことを目標とします。 ※経済学部のディプロマポリシーの②に相当します。

授業計画・内容

１．（1 日目）地方行政の課題発見（さまざまなデータなどを基に学生が考えてみる）

授業の狙いやスケジュールについての説明

地域の課題と現状についてまとめる

具体的な課題について解決策を考案

グループ分け　役割分担

２．（2 日目）現地視察

午前　　市町 A

関連する施設の見学

午後　　市町 B

関連する施設の見学

町職員等とのディスカッション

３．（3 日目）プレゼンテーション

午前　　これまでの成果をまとめて，グループごとに第１次プレゼン

教員からの指導

午後　　第２次プレゼン

それぞれの市町からのコメント等

この授業は，GW 形式で行いますので，人数の上限を 20 名としています。

申し訳ありませんが，この授業は２年生のみを対象としています。

希望者多数の場合は，１年生後期までの取得科目の平均点数で上位から

選抜する。

※システム上，経済学特講Ｃ・経営学特講Ｃ「行政のリアル」と出るかも知れませんが，内容としては「地方行政のリアル」となります。

※今回の対象となる自治体は，現時点で依頼中です。決まり次第，連絡をします。

キーワード	地方財政　地方行政
教科書	特になし
参考書	特になし
評価方法・評価基準	講義で求められる課題をこなすこと。グループで調べたり，プレゼンテーションを行ったりすることが求められます。 グループワーク形式の授業となります。1 日でも出席できないと単位の認定は出来ません。
関連科目	財政学，地方財政論，経済政策
履修要件	特に，前提とする科目はありません。
必要な事前・事後学修	講義中に指示します。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり ゲストでお呼びする特任講師の人は，地方行政の実務経験のある人になります。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	申し込み多数の場合は，申込者のうち，卒業に必要な単位の平均点で上位の人から履修を認めます。 日程については，2 年生オリエンテーションまでにお知らせします。

経営情報論

(Information Processing on Econimics and Business Administration.)

担当教員名　　藤野　秀則				
科目区分　経済：関連 経営：専門・選択	授業方法　講義	対象学年　2年	開講期　前期	単位数　2

オフィスアワー	毎週水曜日2限
メールアドレス	fujino　　末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください
授業概要	今日では組織経営、事業運営においてデータ分析をもとにした意思決定は必要不可欠である。本講義では、経営・経済分野においてよく用いられる統計処理の方法やアプリケーションの使い方を解説する。
到達目標	・基本的な統計処理の方法やアプリケーションの使い方、出力結果の見方を習得する ・どういうときにどういう統計処理の手法を用いるのかを理解する 本講義はDPの2.に対応しています。

授業計画・内容

統計分析手法について、Rを用いた手法をそれぞれ解説していく。

第1回　講義の進め方の概要説明、実行環境の整備

第2回　RとRstudioの基本（オブジェクトと型, Rmarkdown）

第3回　RとRstudioの基本（ベクトルとデータフレーム, csvファイルの読み込み）

第4回　記述統計量と推測統計量

第5回　tidyverseを用いたデータハンドリング

第6回　ggplot2を用いた可視化の基礎

第7回　統計的検定の原理と平均の差の検定

第8回　分散比の検定, 比率の差の検定, 独立性の検定, 多重比較

第9回　相関分析

第10回　回帰分析・重回帰分析

第11回　一要因分散分析（被験者間・被験者内）

第12回　二要因分散分析（被験者間・被験者内・混合）

第13回　変数集約のための分析（主成分分析・因子分析）

第14回　クラスター分析

第15回　まとめと落穂拾い

※　Google Classroomを活用して講義を行うので、必ず事前にClassroomにて本講義を登録しておくこと.

※　毎回講義にはノートパソコンを持参してくることが望ましい. ノートパソコンは必ず充電をしておくこと.

※　本講義はデータ利活用コースの指定科目となっている,

キーワード	統計処理、統計分析、データ分析
教科書	授業時に、資料を配付する 特に教科書は指定しない
参考書	授業時に、適宜指示する

評価方法・評価基準	毎回の課題 50%、期末試験 50%により評価をする。
関連科目	一般教育科目の「統計学基礎」「統計処理演習」 経済学部の専門科目「統計学」 ※　ただし、これらの科目が未履修でも十分に受講・履修可能な内容である。
履修要件	自分用のコンピュータを所有していること。Windows でも Mac でも Linux 系でも OS はいずれでも構わない。iPad を含むタブレット端末やスマホでの受講はできない。
必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示する
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 企業での実務の中で各種統計分析を行ってきた経験をもとに実務と結びつけた解説をする
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

経営組織論Ⅱ

(Organization Theory)

担当教員名　　北野　康				
科目区分　経済：関連 経営：専門・●	授業方法　講義	対象学年　2	開講期　後期	単位数　2

オフィスアワー	随時（事前にメール等で連絡してください）
メールアドレス	kou28 末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。
授業概要	本講義では、マクロ組織論の視点から組織とは何かについて学習します。具体的には、「環境⇔組織⇔個人」との関係から組織の特徴を解説します。
到達目標	①経営学分野における経営組織論の位置づけを理解できる。 ②マクロ組織論の内容を理解できる。 ③マクロ組織論の中で興味あるテーマを見つけることができる。 ※本講義は DP の 1. に対応しています。

授業計画・内容

第 1 回：オリエンテーション

第 2 回：ミクロ組織論の振り返り①

第 3 回：ミクロ組織論の振り返り②

第 4 回：小テストおよびフィードバック

第 5 回：組織構造の諸形態①

第 6 回：組織構造の諸形態②

第 7 回：リーダーシップとフォロワーシップ

第 8 回：フォロワーシップ（役割理論アプローチ）

第 9 回：フォロワーシップ（コンティンジェンシー理論）

第 10 回：フォロワーシップ（構築主義アプローチ）

第 11 回：事例①（リーダーシップとフォロワーシップ）

第 12 回：事例②（リーダーシップとフォロワーシップ）

第 13 回：事例③（リーダーシップとフォロワーシップ）

第 14 回：マクロ組織論の今後の展望

第 15 回：本講義のまとめ

※進捗状況によって変更の可能性がある。

※遠隔授業になった場合：Zoom による授業もしくはオンデマンド教材を使った授業

キーワード	マクロ組織論、リーダーシップ、フォロワーシップ
教科書	教科書は指定しない。
参考書	十川廣國（編）『経営学イノベーション　経営組織論　第 2 版』中央経済社，2013 年。
評価方法・評価基準	期末試験の成績 70%・課題の提出 30% ※遠隔授業になった場合：期末レポート試験で評価
関連科目	経営組織論Ⅰ、経営戦略論Ⅰ、経営戦略論Ⅱ
履修要件	

必要な事前・事後学修	準備学習や事後学習については、その都度指示します。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり フォロワーシップの講義において、ゲストスピーカーを招いた講義を行います。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

経営学特講Ｂ（地域政策の立案）（経済学特講Ｂ）

(Regional Policy Making)

担当教員名　　松原　宏・前田陽次郎				
科目区分　経済：専門・選択 経営：専門・選択	授業方法　講義・実習	対象学年　２年	開講期　後期	単位数　2
オフィスアワー	メールによる予約			
メールアドレス	matubara　の末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。			
授業概要	地域政策の基礎理論や日本の地域政策についての説明を受けた後、各自の関心のある地域と政策的課題を選び、ＲＥＳＡＳなどによる統計分析や他地域の類似政策の参照を行う。各自の地域政策立案の報告と相互の討論を通じて、政策立案と政策評価について学ぶ。			
到達目標	地域政策の基礎理論や日本の地域政策についての理解を深める。ＲＥＳＡＳなどの統計分析手法や図表の作成など、プレゼンテーションの技法を習得する。地域の政策的課題を見出し、具体的に地域政策を立案する仕方を身につける。			

授業計画・内容

第１回：地域政策とは？

第２回：日本の地域政策（１）

第３回：日本の地域政策（２）

第４回：各自の対象地域とテーマについて報告

第５回：ＲＥＳＡＳによる統計分析手法

第６回：ＲＥＳＡＳによる統計分析結果についての各自の報告

第７回：他地域の類似政策の紹介（１）

第８回：他地域の類似政策の紹介（２）

第９回：他地域の類似政策の紹介（３）

第 10 回：政策立案の方法

第 11 回：各自の政策立案についての報告・討論（１）

第 12 回：各自の政策立案についての報告・討論（２）

第 13 回：各自の政策立案についての報告・討論（３）

第 14 回：政策評価の方法

第 15 回：まとめ

※遠隔授業となった場合、Zoom によるオンライン授業を行う。

キーワード	産業立地、地域経済、地域政策、地域イノベーション、ＥＢＰＭ
教科書	特になし
参考書	授業の中で適宜指示する。
評価方法・評価基準	報告・討論の内容と期末レポートの内容により評価する。両者の割合は４：６とする。 ＊遠隔授業の場合も同様
関連科目	経済政策、地方財政論

履修要件	特になし。ただし、実習形式で開講するので，希望者多数の場合は，抽選を行う。
必要な事前・事後学修	日頃から新聞記事などを読んでおくこと。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 担当教員のうち、前田陽次郎は、農産物輸出の会社経営を行っていた。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	